

# COSMOS

GC学部の扉を開いてみませんか？



同志社大学グローバル・コミュニケーション学会機関誌  
No.14

2025年3月

# cosmos ['kɒzmos]

—①よく秩序づけられた宇宙。思考体系。

②キク科の観葉植物。

……花言葉 「調和」

# cosmo- ['kɒzməʊ]

—（接頭語） 世界や宇宙に関する。

---

私は一つの可能性です。

私たちは無限の可能性です。

限り無く広がる世界の中で

調和をもたらす存在に成らんことを願い

これを題名とします。

---

## References

Oxford Dictionaries. (<http://oxforddictionaries.com/definition/cosmos>)

道 自 輝 多 笑

挑 波 樂 結 生 友

# 光耀 Cosmos

No.14

道 繫 夢



努 活 築 勇 信

— これらの漢字は、GCの学生たちが、  
グローバル・コミュニケーションを  
漢字一文字で表したものです。—

## はじめに

この度はグローバル・コミュニケーション学部発行の学部機関誌 *Cosmos* 第14号を手にとっていただき、誠にありがとうございます。*Cosmos* はより多くの方々に本学部について知ってもらうこと、学部内外への情報発信を目的として、学部創設以来、毎年発行されています。

グローバル・コミュニケーション学部は、同志社大学の「国際主義」をさらに進化させ、世界で活躍できる人材を育成することを目的としています。本学部には、英語コース、中国語コース、日本語コースの3コースがあり、徹底した外国語スキルの強化から始まり、様々な国際社会・文化や政治的背景など幅広い教養を身につけるカリキュラムが整っています。

今回、私たちは「光耀」をテーマに活動してきました。この文字は「GC学部の学生一人一人が持つ輝く個性」を表現しています。私たちが4年間で何を学び、どのように行動し、どのような思いを抱いて過ごしてきたのかを、この冊子にまとめました。そして、本誌を通じて「GC学部とは何か?」という問いに対し、多角的な視点をもって皆様にお伝えしたいと考えています。「学生生活」「SA」「卒業後の進路」といった異なる側面からGC学部の「ありのまま」を明らかにすることで、私たちが歩んできた道とこれからの未来を表現しています。*Cosmos* を通して、多くの読者様に少しでもGC学部のことを知っていただき、魅力を感じていただければ幸いです。

最後に、半年間共に記事作成に励んできた15名の編集委員の皆様へ。皆様の協力がなければ学部創設から続く *Cosmos* の歴史を繋げることはできなかったでしょう。コースや学年を超えて共に取り組むことができたことを嬉しく思います。また、この *Cosmos* 制作は、周りの皆様のご協力があり実現することができました。取材に協力してくださった在学生、OB・OGの方々、お忙しい中アドバイスや校閲に関わって下さった先生方、事務室の方々、関わって下さった全ての方々に、メンバー一同深く感謝申し上げます。

それでは、最後までどうぞお楽しみください。

英語コース 3年生 編集委員長 長田 真依

# Cosmos 第14号

## 目次

<b>Cosmos とは</b> .....	4
<b>私たちのSA ～SA体験記～</b> .....	5
・ UC Davis (アメリカ)	
・ 上海外国語大学 (中国)	
・ University of Guelph (カナダ)	
・ The University of Winnipeg (カナダ)	
<b>GC学部の尊敬するあの人に聞いてみた!</b> .....	16
・ SA クロストーク Guelph 編 (3年まあさ×1年よしえ)	
・ SA インタビューレポート Acadia 編 (3年あやか×1年とわ)	
・ GC 学部卒業生 インタビュー vol.1(Nestlé Japan・総合職勤務)	
・ GC 学部卒業生 インタビュー vol.2(JAL・客室乗務職勤務)	
<b>GC生の学生生活ってどんな感じ?</b> .....	29
・ GC学部の多彩な授業とは?	
・ 空きコマはなにしてる?	
・ GC生の授業終わり、休日の過ごし方	
・ タンデム・パートナー制度について知りたい!	
<b>先生コラボ!特別コーナー</b> .....	36
・ 各コースの先生にインタビュー	
・ スペシャル対談 - GC学部について何を思う? -	
現学部長 伊勢先生×前学部長 玉井先生×GCE3年ももか・あや	
<b>2024年度卒業研究タイトル一覧</b> .....	47
<b>あとがき</b>	

# Cosmos とは？

Cosmos は、グローバル・コミュニケーション学部を知っていただくために、学部内の学生への情報発信を目的として学部創設以来、毎年発行されています。同志社大学は国際主義を教育理念に掲げ、世界の多様な社会と密接に関わってきました。その中で、GC 学部は2011年に英語コース、中国語コース、日本語コースの3コースから構成される学部として新設されました。同志社大学の伝統をさらに充実・発展させた、現代のグローバル化社会にふさわしい学びの場が GC 学部です。

そんな GC 学部の広報を担う役割として今年は、15名のメンバーが集まりました。昨年度から Cosmos は Web 版での発行となりましたが、今年は冊子での発行が叶い、皆様に実際に手に取っていただけたらと思うと、非常に嬉しいです。本誌はメンバー1人1人が学部内外でのアンケート調査や GC 学部教授、卒業生に連絡を取るなど、完全に学生が主体となって作られたものです。どうぞ最後までお楽しみください。

【2024年9月25日（水）に実施したオンラインミーティングにて】



## ● Introduction

私たちグローバル・コミュニケーション学部の最大の特徴であり魅力であるのは、やはり2年生で行く約1年間のStudy Abroad（留学）です！SA先大学は、英語コースに15大学、中国語コースに4大学あります。たくさんSA先大学があって選べない、SAが楽しみだけど不安という方！このコーナーには過去にSAに行った先輩方の体験談やアドバイスなどがたくさん載っています。ぜひご覧になってご自身のSAの参考にしてください！

（執筆：松山 桃花、小林 陽円里、児玉 萌日香、森本 有梨沙、佐藤 和香）



松山 桃花

The University of Winnipeg,  
Canada

思い出：友達とたくさん旅行で  
きたこと！



小林 陽円里

University of Guelph,  
Canada

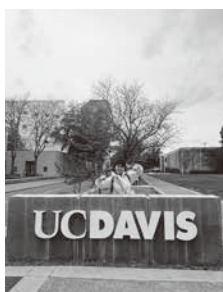
思い出：旅行で地域ごとに違う  
景色を楽しめたこと



森本 有梨沙

University of Guelph, Canada

思い出：スコティッシュダンス  
と暖かいメンバー、深  
い友達とのつながり



現地で仲良くなった友達との一枚！

佐藤 和香

University of California, Davis, America

思い出：アメリカで人生初骨折

## SA先大学に行って分かった、意外な面！

盲導犬を育てるためのサークルがあるようで、盲導犬の見習い犬と一緒に学内で過ごしている人がいる！

(カナダ)

授業前の予習が大事。  
参考文献を厳しく見られる。

(イギリス)

学生の勉強に対する意欲に違いがある。日本では就職のために進学を選ぶ人もいる中、イギリスでは皆将来やりたいことが決まっていて、それに基づき授業を取って学んでいる。

(イギリス)

アカデミックは、語学学校の先生の真摯に向き合う教え方との差が大きかった。

(オーストラリア)

色々な国の留学生がいる。

(中国)

日曜日でも大学の図書館で勉強をしている学生がいる。

(カナダ)

中国の方も一緒に勉強している環境だと思っていたが、留学生が暮らすのは本キャンパスではなかったため、中国人と関わる機会が少なかった。

(中国)

図書館が24時間使用可能

(オーストラリア)

語学学校ときは現地学生と関わる機会が本当に少ない。

(カナダ)

先住民族の文化を重んじている。公共機関ではマオリ語が先に表示される。

(ニュージーランド)

## 体験談

私は現在 UC Davis に SA をしています。UC Davis は10キャンパスあるカリフォルニア大学の中で最も広いキャンパス（同社大学京田辺キャンパスの約28倍）で、私を含めた大多数が自転車、さらにはスクーターやスケートボードで通学している人もいます。そんな広大なキャンパスの中には博物館や植物園、コンサートホールまであります。UC Davis は農学系や獣医学系が有名な大学のため、キャンパス内に牛や馬がいるのが特徴的です。他にも野生のリスやカモ、七面鳥がいたり、学生が芝生にあるハンモックでリラックスしていたりするところを見ると「海外の大学だな」と感じます。学生はみな勉強熱心でダブルメジャーと副専攻が普通であることに驚きました。編入や転学も当たり前で、「本当に興味のある勉強ができる」環境が整っているなと感じます。授業中も積極的に質問をして、教授が話す内容を必死にメモを取っている印象です。それにもかかわらず、クラブ活動にも活発に取り組んでいて、時間管理が上手だなと感じます。また、キャンパス内にあるジムは休日でも多くの学生が利用していて、それぞれが学生生活を謳歌しているなと思います。

(University of California, Davis: 佐藤 和香)



私は中国語コースの SA における寮生活に関してお話ししたいと思います。私たち中国語コースは、北京、上海、台湾のいずれの留学先でも全員寮生活を送ることになります。部屋の仕様や、ルームメイトの人数は各派遣先で異なりますが、基本的には全員が GC の中国語コースに所属しているクラスメイトと共に生活を送ります。今回は私の派遣先大学であった、上海外国語大学について紹介します。上海外国語大学では、多くの留学生が虹口のキャンパスで生活しており、私や中国語コースから派遣された他のクラスメイトも虹口キャンパスに併設されている“上海上外迎宾馆”という、一般の方も宿泊されるホテルで暮らしていました。この上海迎上外賓館は赤峰路駅と虹口足球场駅の2駅間に位置しており、公共交通機関の選択肢が多く、また上海の中心部に位置しているため、非常に便利でした。上海上外迎宾馆には、各階に共用のキッチンやコインランドリーが設置されており、自炊や洗濯も問題なく済ませることができます。学校には安価でおいしい食事を提供してくれる食堂があり、早朝から夕方過ぎまで空いているので、三食を食堂で済ませることもできます。また、最寄駅の1つである虹口足球场駅には“凱徳龍之夢购物中心（虹口）”という大きなショッピングモールが直結しているので、買い物に関しても不自由に感じることはありません。この他にも、中国では“外賣”というデリバリーが普及しているので、大きな荷物から日用雑貨まで安価かつ便利に購入できます。

(上海外国語大学: 兪玉 萌日香)



# 寮・ホームステイして分かった、意外な面！

掃除はハウスクリーニングの業者  
がやる（アメリカでは普通）  
（アメリカ）

家の敷地にリスがいる  
（アメリカ）

寝るのが早い  
（オーストラリア）

シャワー3分  
（オーストラリア）



家が暖かい  
（カナダ）

食器洗いが適当、タッパーに  
汚れが着色している  
（カナダ）

夕食を食べるのが早すぎて、  
一緒に食べられなかった  
（ニュージーランド）

ホストファミリーが日本のアニメと映画を見ている  
（カナダ）

寮費が意外と高かった  
（中国）

GC 学部の子と寮生活だったが、  
ロビーに行けばクラスメイトと  
会えた。海外の学生に寮生活の  
コツを聞いた。  
（中国）

## 体験談

私は、カナダでは珍しいアパートメントで、カナダ人のホストマザーと2匹の猫と一緒に暮らしていました。ホストマザーは Guelph 大学に勤務しており、頼りがいがあり、とても親切でフレンドリーな方でした。家でゆっくり過ごすときには、一緒にイースターエッグをペイントしたり、クッキーやケーキを焼いたり、家庭的なひとときを楽しみました。一見、静かで落ち着いた家庭に見えますが、実際にはホストマザーの姉や甥、姪とそのパートナーや配偶者も含む、温かい大家族のつながりがありました。ありがたいことに、私もその輪の中に本当の家族の一員として迎え入れてくれました。週末にはその大家族で集まる機会が多く、朝ご飯を食べに行ったり、パーティを開いてカードゲームで遊んだり、談笑したり、料理を囲んで賑やかに過ごしました。料理上手な方々だったので、集まるたびに手料理や持ち寄った料理を食べるのが恒例でした。その他にも、メープルフェスやりんご狩り、バーでのバンド演奏鑑賞、そして五大湖の一つであるヒューロンレイクのビーチなど、カナダならではの体験も十分に味わうことができました。

(The University of Guelph: 森本 有梨沙)



私のホームステイ先では、カナダの人は家での楽しみを大切にしているなと感じました。まず家には大体どの家庭にも Netflix や Amazon Prime があります。テレビはあまり見ません。休みの日や夜は映画鑑賞を楽しみました。私は映画やドラマをあまり観てこなかったので、一時期すごくハマってしまいました。また Winnipeg はとても寒いので (12月は体感気温 -20度)、家や大学の中はとても暖かく保たれ (むしろ暑いくらい)、全館空調なので快適でした。室内と外の寒暖差が大きいので服装は脱ぎ着しやすいものを重ね着するのがいいです。クリスマスやハロウィンなどのイベントごとは日本と本気度が違うなと感じました。ハロウィンが近づくとどの家も庭がハロウィン仕様になって、パンプキンを置いたりしていました。またイベントでは手作り料理をふるまってくれました。Thanksgiving Day にはマザーは朝からチキンを煮込んだり、サラダやデザートを作ったり大忙しでした。もちろんすべておいしかったです。クリスマスにはマザーの友達のご招待でパーティーに参加させてもらいました。ここでもまた全て手作りで、その家の伝統料理をふるまってもらい、夕食後にはゲームをしたりと日本では味わえない体験ができました！



(The University of Winnipeg: 松山 桃花)

# アクティビティして分かった、意外な面！

LA Country Fair という移動遊園地に行った、日本では見られないお祭りの文化に圧倒された  
(アメリカ)

ボランティアに参加する学生が多数、文武両道  
(アメリカ)

学校に遊園地が来た  
(カナダ)

BBQ ができる簡易的な台が街中の公園にある  
(オーストラリア)

ぶどうを投げるお祭りが開催された  
(カナダ)

ハロウィンのコスプレをしている人がとても多かった  
(カナダ)

学内にパブがある  
(イギリス)

テムズ川でイギリスの各大学が集まるポートパーティが開催された  
(イギリス)

水洗トイレではないため、トイレが流れない (ポケットティッシュを携帯していた)  
(中国)

日本語授業のボランティアを通して、自分の知らない日本語の仕組みや価値観について学べておもしろかった  
(ニュージーランド)

## 体験談

ホストマザーの姪の紹介を通じて、カナダ文化の一つであるスコティッシュダンス（ハイランドダンス）を始めました。ダンス経験は全くなく不安もありましたが、大学内の部活動が活発でなかったこともあり、「長期留学中に現地ならではの新しいことに挑戦してみたい」「何かコミュニティに所属し、友達を作りたい」という気持ちから、学外のクラブチームに思い切って1人で参加しました。週2回、2時間ほどの練習を重ねる中で、メンバーとの何気ない会話や、ダンススキル向上のためのアドバイスを受けながら、次第に深い友情関係を築いていきました。クリスマス発表会に向けて、グループコレオグラフィーを作成した際にも、メンバーと協力したことが印象に残っています。特に嬉しかったのは、大会で4つのトロフィーと20枚を超えるメダルを獲得し、その喜びをメンバーと分かち合えたことです。大会中には、互いのダンスを応援し、休憩時間にはお菓子を囲んで盛り上がりました。また、定期的に行われるピザパーティーなどのイベントでは、プールや水風船遊び、共同での絵描きなどを通して、かけがえのない思い出を作りました。こうして多くの方々サポートのおかげで、非常に貴重な異文化体験を得ることができました。



(The University of Guelph: 森本 有梨沙)

SA中のアクティビティを通して、多くの現地学生が社会貢献や地域との関わりを大切にしていることが分かりました。ゲルフ大学では、大学または学生自身が町をより良くするための活動を主催し、多くの学生が参加をしています。例えば、新学期には“Project Serve”という25年以上続くボランティアが開催され、毎回300人以上の学生が地域団体と活動しています。私が参加した際は、低収入世帯を支援する団体と共に、ゲルフ内の低収入地域を回り、住民に炊き出しのイベントが開催されることや団体の活動内容の説明をしました。私は、現代の貧困差の原因について学ぶ授業をアカデミック科目として受けていたのですが、講義で習った社会問題をProject Serveを通して目の当たりにする中で、その問題の中で苦しむ人々を助けるために行動することがどれほど重要なのかを感じました。このように、多くの学生がただ講義を通して知識を得るだけでなく、自ら問題解決に貢献していることが、ゲルフ大学でのアクティビティのなかで特に印象的でした。今回のボランティアを通して培った、自分が学んだ知識を教室外でも活かす応用力や行動力を、日本に帰ってからも大切にしていきたいと感じました。



(University of Guelph: 小林 陽円里)

## 旅行して分かった、意外な面！

カナダ国内の旅行でも  
パスポートが必須！  
(カナダ)

南島はどこにでも羊がいる！  
(ニュージーランド)

パリでバスに乗ろうとした際  
決済がうまくいかなかったが、  
運転手さんが快く乗せてくれ  
た  
(イギリス)

同じ国の食べ物でも  
地域によって味や  
素材が違う  
(中国)

ディズニーランドのすぐ  
隣にホームレスがいた  
(アメリカ)

電車で旅行した際に、帰る直前  
に会社側の都合で予約をキャン  
セルされた  
(カナダ)

レストランでの金銭感覚。  
席代を払う・タップウォーター  
でないと水もお金を取られる  
(イギリス)

## 体験談

SA 期間中、ケベックへ旅行に行きました。このケベックには、他のカナダ都市にはない異国感が漂っています。まず1番印象的だったのは言語です。ケベックでは主にフランス語が話されており、挨拶や街の人々の会話、看板や店の名前など、多くのものが英語ではないことに衝撃を受けました。特に、レストランのメニューがフランス語で書かれていたときは困惑しました。日本では、どこに行っても日本語が通じるので、地域によって使われている言語が違うことを自分の目で見たことは新鮮でしたし、「国内にいれば自分の話す言語が他者に通じる」ということが当たり前ではないことに改めて気づきました。また、ケベックの街並みも印象的でした。石造りの建物や、フランス料理のレストラン、フランス植民地時代に建てられた教会など、どこかヨーロッパを感じさせるような風景が、多様な民族の食べ物や宗教施設、伝統行事などが共存しているトロントとの違いを感じさせました。グローバル化が進む現代において、異文化を受け入れることも、古くからの歴史や伝統を守っていくことも、どちらも重要だということを2つの対照的な都市を比べて感じました。



(University of Guelph: 小林 陽円里)

普段授業がある期間はホテルで寮生活を送っているのですが、学校が休みになると多くのクラスメイトが旅行に出掛けていました。私も例に漏れず、上海はもちろんそれ以外の浙江省や江蘇省、北京市といった都市に、SA 先で出会った友人や、北京に派遣された GC 学部の友人と共に訪れました。私が旅行で訪れた場所は全て上海から陸路で移動することができる場所だったので、“高铁”と呼ばれる日本の所謂新幹線のような鉄道機関を利用して移動しました。私が訪れた旅先の中で1番遠かった北京で、おおよそ6時間かかりましたが、料金は大阪から東京間の新幹線代程度でした。各地の観光地やレストランなどは全て“大众点评”という中国最大級の口コミサイトや、“小红书”という SNS を活用して調べました。地方ごとに公共交通機関で利用できる決済カードが異なるのですが、“支付宝”と呼ばれる決済アプリを利用することで簡単に切り替えを行うことができ、非常に便利でした。



GC 学部では、このような環境下で貴重な経験を通して成長することができます。

(上海外国語大学: 児玉 萌日香)

## 食べ物を食べて分かった、意外な面！

サンドイッチの付け合わせでスナックのポテトチップスがそのまま出てきた。

(カナダ)

意外とお米を食べられる機会が多いが、タイ米だから日本のお米ほどおいしくない。

(カナダ)

イギリス料理はまずいことで有名だが全部まずいわけではない。おいしいものもあるし、味が薄いものはテーブルにある塩胡椒で味を調整する。

(イギリス)

外食は高いが日本とは違って生鮮食品に消費税がかからないため自炊をすれば月々の食費はとても安く済む。

(イギリス)

果物は野菜感覚で食べているのか、日本のように甘さ・見た目・ツヤ重視のものはほとんどない。

(イギリス)

スコットランドの伝統料理である、羊の胃袋に羊の内臓を詰めたハギス。好き嫌いが分かれるようなので恐る恐る食べてみたがとてもおいしかった。日本人の口に合う料理だと思う。

(イギリス)

パキスタンカレーばかり食べる。

(カナダ)

香辛料を使った料理が多い。

(中国)

羊肉はほとんど出てこなかった。

(ニュージーランド)

小麦のものが多すぎる。

(オーストラリア)

日本人の口に合うような優しい味付けのものも多く、麻辣湯にも豚骨ベースのものがあつた。

(中国)

## 体験談

多文化社会と呼ばれるアメリカですが、デイビスもその一例で、キャンパスはいろいろなバックグラウンドを持つ人であふれています。そのため、キャンパスのカフェテリアや学校から徒歩10分ほどの距離にあるダウントOWNには、いろいろな国の食べ物があります。(もちろん日本食もあります!) なかでも、ヒスパニックの影響でメキシコ料理が多いなという印象があります。タコスやブリトーなどを初めて食べましたが、おいしくて虜になりました。他には、ベトナム料理やギリシャ料理のレストランもあります。私はホームステイをしています、アメリカ人のホストファミリーのため、出てくる料理は The American です。朝はワッフルやパンケーキ、夜はハンバーガーやピザのときもあります。三人いるホストブラザーはご飯が好きなので、ご飯が出てくることも多く(ジャポニカ米ではなく、細長くてパサパサしているジャスミン米ですが)

助かっています。昼はカフェテリアを利用したり、友達とダウントOWNへ食べに行ったりしますが、キャンパスに来てくれる無料配布のキッチンカーを使うことも多いです。円安と物価高の影響で、一回の外食で2500円を超えるのは当たり前なので、リーズナブルに済むことに満足しています。

(University of California, Davis: 佐藤 和香)



私のSA先であるWinnipegは多国籍な都市であるため、イラン料理や中国料理、ベトナム料理など世界中の食べ物が全部あるのではないかと思うくらいレストランがありました。留学前は毎日ピザやハンバーガーばかりで日本食が食べられないのではと不安でしたが、日本食はカナダで人気なため特にお寿司はショッピングモールやスーパーには大体おいていました。私のホストマザーは料理上手で夕食に野菜を意識した料理(ポテトグラタン、サラダ、野菜炒めなど)を作ってくれ、白米も出してくれました。もちろんハンバーガーやラザニア、ピザも食べました! 私はチーズが好きだったので、カナダではあらゆる食べ物にチーズがトッピングされていたので、日本帰国後はほとんど食べなくなりました。やはりヘビーな食べ物が多いので、胃もたれを頻繁に起こしていました(笑)



(The University of Winnipeg: 松山 桃花)

# GC 学部の尊敬するあの人に聞いてみた！

## GC 学部 先輩との交流コーナー

(執筆・インタビュー：森 淑恵、小田垣 都和)

こちらのコーナーでは、前半がSA クロストーク、後半に現在多方面で活躍されている GC 学部卒業の先輩にインタビューを行った内容をレポートします。

GCE1年生2名が同じ SA 先を選択し今年帰国された3年生の先輩方に、SA についてお伺いしました。

### 英語コース SA 先：University of Guelph (Canada)



GCE 3年生 まあさ



GCE 1年生 よしえ

#### 1. SA 中に感じたカルチャーショックやそれを通して学んだことは何ですか。

雨天で飛行機がキャンセルになり、バスでニューヨークへ向かった際、休憩所でトイレ休憩をとり、再びバスのあったところへ戻ると私たちの乗ってきたバスがありませんでした。私たち以外にも置いていかれた人がたくさんいて、彼らはバス会社にすぐに電話をして「私たちは悪くない！そちらの責任だ！替えのバスをよこせ！」と強い口調で抗議していました。（一日で何度 “It is your responsibility!” と聞いたことか……）その休憩所には1時間に1台ほどそのバス会社のバスが来るので、少しの空席を見つけてはデモのようにすごい迫力で抗議して乗せてもらっていました。私たちはずっと後ろにいたのでなかなか乗せてもらうことができず、到着が大幅に遅れてしまいました。日本人は遠慮しがちで言葉を濁したり「我慢すればいいや。」と助けを待つ傾向にあります。それは海外では通用しません。海外では自分の権利や思いを主張してやっと人の目にとまります。自分からアクションを起こさないと誰も助けてくれません。すごく大きなカルチャーショックでしたが、とても大切なことを学びました。

## 2. SA 先は University of Guelph でしたが、Guelph の魅力を教えてください。

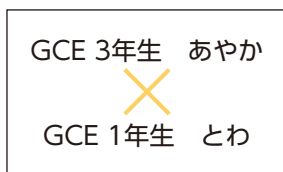
まず大学に関しては、留学生が多いのでサポートがしっかりしていて留学生向けの activity(ナイアガラの滝への遠足やアイスホッケー観戦、放課後のクラフトや陶器への絵付けなど)が定期的で開催されていたのが良かったです。また、大学の敷地内にはプールやジム、Arboretum と呼ばれる植物園があり設備がすごく充実しています。カナダ随一と評価されているカフェテリアも University of Guelph の大きな魅力の一つです。Guelph 市はトロントやニューヨークといった都会にも出て行きやすく、街中は自然がいっぱいで至る所でリスやスカンクが走り回っています。Guelph は都会と自然の両方を楽しみたい欲張りさんにはぴったりの SA 先ですよ。

## 3. Guelph ではボランティア活動が盛んに行われているそうですが、先輩はそういった活動に参加されましたか。

学校の像を磨いたり、街の festival の設営スタッフをしたりしました。日本人にはボランティア活動に積極的なイメージはなかったですが、Guelph の人々はボランティア活動にすごく積極的で家族全員で参加したりしていました。ボランティア活動は学校の学生や現地の人々と交流できる良い機会でもあるので参加することをおすすめします。

## 4. 最後に、これから SA に行く後輩たちへメッセージをお願いします。

10か月は長いように感じますが、行ってみたら本当に一瞬で終わってしまいます。SA 後の自分の理想像をつかってそこに向かって行動していたら濃い1年になりますよ。でも楽しんでいたら自然とそうになっていきますから難しく考えないでくださいね。何よりも楽しむことが一番大切です。目標を持って1日1日を大切に過ごして行ってください。応援しています。がんばってください！



### 〈Acadia を選ばれた理由〉

まず Acadia を選ばれた理由を聞くと、少人数で授業を進められるからということ。

他の SA 先の大学と比べても、Acadia はかなり小規模で、全体の学生数は3500人ほど。語学学校と Academic 両方で、優しい先生方に手厚く指導してもらえるということで、私も一安心！

### 〈寮かホームステイか〉

Acadia は、寮とホームステイどちらで生活をスタートするのか選ぶことができるのも魅力！自分の性格によってどちらの環境が合うと思うか、じっくり考えてみるのがいいとアドバイスしていただきました。定期的にイベントがあり、現地の学生との交友関係が広げやすいのは寮生活、よりアットホームに英語力を伸ばして休日にはホストファミリーとお出かけに行けるのはホームステイだと聞くことができました。

先輩はホームステイを選択され、昼間は働かされているホストファミリーと、ディナータイムにお話して、英会話を楽しんでいたそうです。

### 〈Academic の授業について〉

語学学校が終わると Academic の授業が始まります。先輩は、politic, sign language, history, などの合計5つの文系の授業を取られていました。易しい授業と難しい授業があるのは、日本といっしょ！人気な授業は抽選で決まるそうなので、運に身を任せます。

### 〈夏休みの過ごし方〉

夏休みの過ごし方についてもお聞きしました。先輩は、Acadia 大学があるウルフビルという町の周辺を散歩して、すれ違う人に積極的に話しかけて英会話の経験を重ねていたそう。

ウルフビルは自然豊かな田舎町。自由な夏休みの期間に、ゆったり散歩して過ごすという楽しみ方もとてもすてきだなと感じました。

また、Acadia 大学があるノバスコシア州の州都であるハリファックスにはバスで行くことができ、ショッピングも楽しんでいたそうです！

### 〈心に残っていること〉

SA 中、一番心に残っていたことは、3月にクラブパーティーをしたことと挙げていただきました。ドレスも友達と買いに行かれたそうで、とっても楽しそうでした。

### 〈就職活動〉

最後に、現在3年生ということで就職活動についてもお聞きしました。先輩は、GC 学部で選ばれた積極性や多文化理解を活かして、英語を実践的に使うことができるメーカーに興味を持たれているようです。

インタビュー後も、SA についての質問や心配事を定期的に相談させていただき、GC 学部の縦のつながりを強く実感できました！

とても頼もしい優しい先輩方に続いて、SA 先で一生の経験を作れるようにがんばります！

## ((GC 学部卒業生インタビュー vol.1)) ～ SA を就職活動に効果的に活かすには? ～

グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科 英語コース  
2024年卒業 高司 空さん

### 高司さんのご経歴

SA 先：ゲルフ大学 (カナダ)  
課外活動：Welcome to GC!  
現在の勤務先：ネスレ日本株式会社



2024年11月6日に、Cosmos メンバー3名で GC 学部の卒業生である高司空 (たかじそら) さんにオンラインインタビューを行いました。トークテーマは、**留学経験と就職活動**についてです。高司さんは SA を通じて大きな成長を遂げ、また就職活動でも自分に合った企業を見つけて充実したキャリアを築いておられます。唯一無二の留学経験を就職活動においてどのように活かされたのかを中心に伺いました。GC 学部卒業後の進路を考えるうえで参考になる内容が盛りだくさんですので、ぜひご一読ください。

### 〈高司さんからの留学経験に関連するアドバイス〉

#### 1. 自分から行動することが大事！

SA 中、最初は言葉や文化の壁を感じるが多かったですが、最も大切だと思ったのは、自分から積極的に行動すること。言葉が通じなくても、意見をしっかり伝えようとする姿勢が意外と大事で、結果的に良いコミュニケーションが生まれることが多いです。自分の思いを表現することで、周りも理解してくれますし、思いがけないチャンスにつながることもありました。

#### 2. 授業外の活動も重要！

学業だけに集中するのではなく、SA 先での学校生活を楽しむためには授業外の活動にも参加することが大切だと思います。私は学生コミュニティやボランティア活動に積極的にに関わり、そこで得た経験は本当に貴重でした。異文化交流ができるだけでなく、地元の人たちと深い関係を築ける機会にもなりました。

#### 3. SA は、自分がやりたいことを見つける過程のひとつ！

SA 当初は、正直自分が何を学びたいのかははっきりしていませんでした。でも、栄養学やマーケティングなど興味が湧いた分野の授業を取ってみると、思っていた以上におもしろい発見があり驚きました。最初は迷いながらも、少しずつ自分の興味を深めることができました。SA はただの学びではなく、自分が本当にやりたいことを見つけるための貴重な過程でもありました。

### 1. 資格よりもその資格を取る理由が大事

資格を持っていること自体が評価されるのではなく、なぜその資格を取ろうと思ったのか、どのようにその資格を活かしていくのが面接では大きなポイントだと思います。私は資格を取得する際、単にスキルアップが目的ではなく、どんな場面でその資格を活かせるのかを考えながら学びました。例えば TOEIC だと、数字が顕著に出て実践的なスキルがあることが分かり易いですよね。その経験を面接でしっかり伝えることができたのが、結果的に良い印象を与えることにつながったと思っています。

### 2. 自分に合った企業を選ぶことが大切！

就職活動で大事なのは、ただ数多くの企業に応募することではなく、自分に合った企業を見つけることだと思います。なぜなら、最終的に入社するのは1社のみだからです（笑）インターンシップや面接を通じて企業の文化や価値観をしっかりと理解し、自分がその企業で成長できるかどうかを考えることが大切だと思います。最終的に、自分の価値観に合った企業で働くことが、長期的な満足度につながります。私が今勤務しているネスレ日本は職場の人ともフラットな関係で楽しく仕事できています。

### 3. 就活の数よりも質が重要

就活の過程でインターンシップの数を増やすことにこだわる人も多いですが、私が大切にしていたのは、質の高い経験を積むことです。企業数を増やすよりも、どれだけ自分に合った企業を見つけ、じっくりとその企業のカルチャーを理解できるかが重要だと思います。なかなか難しいですが、良いなと思った企業を見つけたら、そこを中心に面接や座談会でその企業の雰囲気を実際に感じる事が、最終的に良い結果を生むのではないのでしょうか。

### 4. 英語系の TOEIC など以外に資格って必要？

確かに会計職の代表的な資格である簿記なども大事かもしれないですし、取っていたら一部の企業で有利かもしれません。しかし前述のとおり資格を保持しているだけでなく、なぜその資格を取ったのかという理由の部分が最も大切だと思います。そのため、資格の数などにこだわる必要はないというのが私の考えです。意外かもしれませんが、特に営業職を目指すなら運転免許はかなり重要な資格だと思います。営業職では車を使う機会が多いため、運転免許を持っているときっと有利です！（笑）私も就職活動を通じて、運転免許を持っていることで評価されたことがあり、これが実はかなり強みになるのだなと実感しました。

## 〈最後に〉

SA と就職活動の両方で成功するためには、積極的な行動力と自分に合った選択をすることが大切だと学びました。今回のインタビューを通して感じたのは、SA をどのように就職活動に活かすのかに関して、そこまで考えすぎてはいけないのではないかということ。また、SA での自分の成長のためには新たな環境に飛び込むことが大切だと分かりました。SA 中は、学業以外の活動にも積極的に参加して、さまざまな経験を積むことが必要だと思います。そして、就職活動では資格取得の理由を明確にし、志望企業を理解することが、納得のいくキャリア選択につながります。自分の価値観を大切に、焦らずに一步一步進んでいくことが、結果的に満足できる未来を作る鍵となるという貴重なアドバイスをいただきました。皆さんも、GC 学部で SA を経験し、すてきなキャリアを描きませんか？

**高司さん、お忙しいところご協力いただきありがとうございました！**

(執筆：長田真依・インタビュー：長田真依、森淑恵、小田垣都和)



オンライン座談会での全体写真撮影

## ((GC 学部卒業生インタビュー vol.2)) ～ SA を就職活動に効果的に活かすには? ～

グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科 英語コース  
2020年卒業 藤井 かれん さん

### 藤井さんのご経歴

SA 先：ゲルフ大学 (カナダ)  
現在の勤務先：JAL (日本航空株式会社)  
職種：客室乗務職



2024年11月21日に、Cosmos メンバー4名 (3年：長田・1年：小田垣、中出、森) でGC 学部の卒業生である藤井かれん (ふじいかれん) さんに、同志社大学京田辺キャンパスにてインタビューを行いました。藤井さんは現在、JAL (日本航空株式会社)の客室乗務員にて勤務されており、主に国際線でご活躍されています。皆さんが憧れを抱く職業である「客室乗務員」として働かれている先輩です。GC 学部卒業後の進路を考えるうえで参考になる内容が盛りだくさんですので、ぜひご一読ください。

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部  
プレゼンテーションルームにて

(長田)：藤井さん、本日はお忙しい中お越しくださり誠にありがとうございます。

(小田垣・中出・森)：ありがとうございます。

(長田)：本日は現在 JAL で国際線の客室乗務員として勤務されている藤井さんにお話を伺います。よろしくお願ひします。

(長田)：まずは最近ご結婚されたということをお伺いしました。おめでとうございます！

(小田垣・中出・森)：おめでとうございます！

(藤井さん)：ありがとうございます！

(小田垣)：ハネムーンはどちらに行かれたのですか？

(藤井さん)：パリとロンドンに行きました！本当に良かったです。とても楽しくてもっと滞在したかったくらいです。(笑)

(森)：すてきですね。

(長田)：ではさっそくお話を伺いたと思います。現在、藤井さんはどのような業務に携わられているのでしょうか。

(藤井さん)：私は今、入社5年目の客室乗務員として国際線のビジネスクラスまでを担当していま



(一同) : すごいです。

(長田) : 藤井さんは CA さんになるためのスクールに通うような、ダブルスクールをされていたのですか？

(藤井さん) : いえ、私は通っていませんでした。通う人が多く、半分以上の方は行っている気がします。確かに通えば合格する確率は上がるかもしれませんが、確定はしませんよね。

(長田) : 確かに。

(藤井さん) : だったらお金を払って通うことよりも、自分の力で勝負がしたかったので、友人と一緒に自己分析や企業研究をひたすらノートに全部まとめて、面接練習も数え切れないくらい行いました。スクールに通っている方たちが説明会などで一斉に並ぶのを見ると、鍛えられている分すごく目立ちますし、一発で分かります。その反面、皆同じに見えてしまうこともあります。

(小田垣) : そうなのですか？！

(藤井さん) : そうです。なので、逆にスクールに通っていない私たちの方が、差別化できている気がしました。それが自信につながって、結果的に合格することができた気がします。なので、必ずしもスクールに通わなければ合格できない！ということは全くないです！

(長田) 採用活動において、面接やエントリーシートの提出のときに気を配っていたポイントはありますか。

(藤井さん) : 見た目においては、やはりスクールの方たちが頭のとっぺんからつま先までピシッとされていて群を抜いていました。

(長田) : そうなんですね。

(藤井さん) : なので、スーツはシワひとつなく同じようにピシッとしていきました。第一印象は見た目から入ると思っているので、譲れないポイントです。清潔感があって、凛々しく！を意識していました。そして立ち振る舞いとしては、椅子に腰かけるときも、背筋を伸ばして、指先まできれいにそろえます。

(小田垣) : さすがです。

(藤井さん) : 足も閉じて、少し斜めに流して美しい姿勢を保ちます。また、言葉遣いに関しては難しいところもありますが、ハキハキ喋ることと、「笑顔」が大事です。特に笑顔は本当に大切です。ただ CA の面接では、実は「型」のようなことを求められるわけではなく、むしろ「その人らしさ」を見られています。もちろん留学経験も問われますが、それ以外も問われます。私のときは、3対2の二次面接の際に受験生全員が留学経験者でした。

(長田) : すごい確率ですね。

(藤井さん) : 実際に留学経験以外を問われたので、その際に焦らないためにも、留学経験以外の自分の強みを言語化できるようにして色んな引き出しを持っておくといいと思います。

- (長田)：なるほど。ありがとうございます。藤井さんは就職先を選ぶ際、日系か外資系、どちらを重視して選ばれていましたか。
- (藤井さん)：どちらにも良さがあるので、自分が「どんな働き方をしたいか」を軸に考えると思います。日系は「おもてなし精神」や「チームで働くこと」大事にしています。一方で外資系は、個人の自由度が高く、働き方も少しラフな部分があります。例えば、外資系はフライト後は現地解散ですが、日系はデブリーフィングと言ってそのフライトの振り返りを必ず行い、次のフライトに活かします。私は日本人として、日本のおもてなし精神を日本の航空会社で世界に届けたかったので、外資系は視野に入れませんでした。あくまでわたしの場合なので、これから CA を目指す方は「自分の価値観」に合う方を考えるといいと思います。
- (小田垣)：私は夏休みにエミレーツ航空に乗りました！エミレーツはご飯がおいしいと聞いていましたが、本当にそうでした。個人的に一番印象的だったのは、CA さんにメガネをかけていた方が多かったことです。目が乾燥するからだそうですが、すごく自由な雰囲気がありました。
- (藤井さん)：そうですね！実は日系は安全上の理由でメガネの常時着用は禁止されていますが、外資系は身だしなみの自由度が高く、アクセサリーをたくさんつけている方も多くいらっしゃいます。また、機内でサービスが終わった後、CA さんたちはカーテンを閉めて自由に過ごすことが多い印象です。そこは外資系の良さでもあり、少し憧れます。日系では常に誰かが客室にいて、不測の事態が起きた際にすぐ対応できるようにしています。また、JAL では常にお手洗いと客室をきれいに保つことを徹底しています。このような細かい気配りが日本らしさのひとつである気がします。
- (林)：それって本当に大事ですね。国際線だと多様な文化の方が乗るので、清潔であることに日本らしさを感じたり、安心感にもつながると思いました。
- (長田)：ここまで外資系と比べていただきました。藤井さんは、他社さんと JAL さんの違いはどこにあると思われますか。
- (藤井さん)：JAL は本当に雰囲気が温かくて、社風もいい意味でフラットな感じがします。
- (長田)：そうなのですか？
- (藤井さん)：厳密に言うと上下関係はもちろんありますが、お互いの名前を呼ぶときは「チーフ」などの役職で呼ばずに〇〇さんで統一しています。また、JAL では一人ひとりが小さなグループ（ファミリーといいます）に所属していて、月に1、2回ファミリーフライトがあります。普段はほぼ初対面の方とのフライトですが、そのフライトではメンバーが同じグループの方なので飛ぶうちに仲がより深まって、ステイ先ではご飯に行くなど、和気藹々と楽しくフライトしています！
- (林)：楽しそうですね！
- (藤井さん)：本当に楽しくいい環境で働いています。
- (森)：藤井さんの学生時代についても伺います。SA で「これやっておけばよかった」と思ったことはありましたか？

(藤井さん)：ないですね！（笑） 本当に後悔したことはほとんどなくて、性格も関係しているかもしれませんが、自分がやりたいと思ったことにガッと集中できた一年でした。私は目標を TOEIC900点以上に設定していて、その為に図書館にこもってすごく勉強していたことが記憶に残っています。課題も多かったのですが、せっかくの経験に妥協したくなかったので必死でした。その結果、目標も達成できたのですごく報われた気がしました。

(一同)：かっこいいです。

(藤井さん)：ただ、メリハリは大事です。今でも、何かを達成したいときやがんばりたいときはがんばって、それ以外では少し息抜きをして、と言う感じです！

(林)：すごい努力家……。

(藤井さん)：SA のときは大変すぎて、海外へ行ったのに5キロぐらい痩せて帰ってきました。（笑）

(一同)：えー！

(長田)：信念が確立しているからこそ、そこまでがんばっていったのですか。

(藤井さん)：そうかもしれないですね。信念があるからっていうのは大きいかもしれません。私は競争はあまり好まないですが、掲げた目標以上を達成することを心がけています。ただ、周りよりエンジンがかかるのはちょっと遅いのかなと感じます。（笑）

(林)：性格も関係しているのですね。

(藤井さん)：私は息を抜くところは抜くので、常にオール A じゃなくてもいいと思う性格です。完璧主義ではなく、楽観主義なので（笑）

(長田)：私も藤井さんに似ている気がします。（笑）

(藤井さん)：ただ、それまでずっとそんな感じで過ごしてきたので、何かひとつは完璧を目指したくて SA だけは何よりもがんばりました。卒業生代表スピーチもさせていただけて、結果は大成功です！なので、皆さんも何かひとつは自慢できるくらいがむしゃらにがんばってみるのもいいと思います。

(中出)：なるほど。

(藤井さん)：ただ必ず息抜きもしっかりしてくださいね。

(中出)：息抜きはどのようにされていたのですか。

(藤井さん)：私はあんまり外に出るタイプじゃなくて、家で映画や YouTube を見たり、漫画を読んだりしていました。それがストレス発散にもなってよかったです。なので、自分が好きなことやリラックスできることをするのが一番いいと思います。

(長田)：この機会にお伺いしたいことがあるのですが、今私も就活中でして……。他の子たちががんばっているのを目の当たりにすると、自分のペースでやるのが正しいのかと迷うことがあります。藤井さんはそのあたり、どのようにバランスを取られていましたか？

(藤井さん)：とても良い質問ですね。就活中は、周りの動きが気になったり焦ったりすることも

ありますよね。でも私は、自分が納得できるペースで進めることを大切にしました。他の人がどれだけがんばっていたとしても、最終的に自分が満足いく結果を得ることが一番重要だと思うんです。自分の中で「ここだけはしっかりやろう」というポイントを決めて、それ以外は無理に追い込まないようにしていました。自分が「今日はここまで大丈夫！」と決めたらその心にしがたって、あとは休息という感じで進めていました。

(長田)：周りに流されることなく、ご自身の軸をしっかりと持たれているんですね。とてもすてきです。

(藤井さん)：また、周りと比べるよりも「昨日の自分と比べてどうか」を意識すると良いと思います。JAL フィロソフィーにも、「昨日よりは今日、今日よりは明日」というものがあります。それならプレッシャーも減って、着実に前に進めます。自分のペースでいいので、焦らず進んでいけばおのずと結果はついてきます！

(長田)：本当に参考になります。ありがとうございます。

(林)：最後にこれからSAへ行く学生へメッセージをお願いします。

(藤井さん)：がんばるときはがんばる、息抜きするときは息抜きするというふうにメリハリをつけて、自分の心に負担のないように過ごしてください！あとは、1年しかないのと思う存分楽しんで、いろんなものを食べて、見て、経験して、多くのことを吸収していただければなと思います。つらくなったときには周りに頼ったり、ご家族に電話したりするなど、心の安らぎを大切にしてください。あとは、一旦就活のことは忘れて、目の前のSAに向けてがんばってほしいです！

(一同)：すてきなメッセージをいただきありがとうございます。

(長田)：3人も2月から順次渡航していきますね。本日、藤井さんにいただいたメッセージを胸に世界へ羽ばたいてください。

(藤井さん)：そうですね。体調には気を付けてがんばってきてほしいです。

(小田垣・中出・森)：ありがとうございます。一生懸命がんばります。藤井さんのフライトにも乗ってみたいです。

(長田)：私も！

(藤井さん)：いつでもお待ちしております！

**藤井さん本当にありがとうございました！**

GC 学部には夢を形にできる環境があります。仲間と共に切磋琢磨し、あなたの夢を実現させてみませんか？

(執筆：長田 真依・インタビュー：長田 真依、小田垣 都和、中出 ちさ、森 淑恵)



インタビューの様子



藤井さん：右から2番目、右から森・小田垣・長田

# GC生の学生生活ってどんな感じ？

## 各コースの授業について

### 【中国語コース授業について】

中国語コースでは、少人数制の授業を通して、会話、リスニング、ライティングなど分野別に中国語の基礎からしっかりと学ぶことができます。授業では発言の機会が多く設けられており、中国語コースの学生どうしが切磋琢磨しながら、中国語のスキルを着実に向上させることのできる環境が整っています。さらに、SA 後には、中国の文化や方言、翻訳といったより専門的な分野の中から、興味のある授業を選択することができます。今回は、専門的な内容の授業から一つ、紹介しようと思います！

### 中国語と日本語 - 中国語と日本語の違いを学び、言語の奥深さに触れる授業 -

本授業では、中国語と日本語の文法上の違い、そしてそれぞれの言語でのコミュニケーションにおける微妙なニュアンスの違いを対比しながら学んでいます。文法や表現の相違を理解することで、両言語の特性がより鮮明に感じられ、言語そのもののおもしろさに気づききっかけとなる授業の一つです。

授業内では中国語以外の言語が紹介されることもあり、さまざまな視点から言語を学ぶ楽しさが味わえるのも魅力です。また、日本語についての理解も深まる機会となり、自分が日本語の文法に対して意外と詳しくないことに気づかされることも少なくありません。SAのあとだからこそ、言語の根本的な部分に立ち返り、新たな発見を得ることで、改めて言語の魅力に触れることができます。授業のテーマに沿って、中西先生が教えてくださる歴史や中国圏内での生活に関する豆知識も非常に興味深く、知識が広がる内容となっています。

また、授業で使用される教材も充実した内容であり、初学者でもわかりやすく学べる工夫が施されています。中国語と日本語を深く理解したい方にとって、最適な学びの場となることは間違いありません。

### 【英語コース授業について】

英語コースは、Listening, Reading, Writing, Speaking の四技能を中心に、SA を視野に TOEFL のスコアアップに力を入れた授業や、ネイティブの教授が担当するプレゼンテーションやディスカッションについて学ぶ授業などを受けています。同じ授業でも、複数の教授が別の観点からトピックを深掘していく講義もあり、社会で日常的に使用される「グローバル化」という言葉の意味を文化的・言語的に見つめ直し、その中で自分が何のために学び、どう活躍するのか考える機会が与えられるコースではないかと思えます。今回は2つの授業に焦点をあてて詳しくご紹介します！

### ・Threshold Seminar - SA に向けた万全の準備のための授業 -

この授業は、一年生が終わる前に出発する SA に向けた準備をする授業です。春学期は、SA 先として選択できる国と大学について、校風や Academic で取ることができる科目、費用や渡航に必要な成績など様々な項目について情報を得られます。入学後の早い段階から、自分の SA のビジョンを立てて考え始めることは、目標を明確にする点においてとても大切だと感じました。秋学期では、推薦先として決まった大学の国ごとにクラスが分けられ、約一年間をともに

過ごす同志との交流を深めながら、その国についても深く調べていきます。異国で暮らす上で必要とされる独自の文化や歴史に関する知識を身につけ、食や観光などの楽しい面だけではなく、薬物や気を付けなければならない部分なども、母国である日本との比較もしながら学び、近づく SA に向けて準備をします。出発する前にある程度の教養が身につくことで、心の準備ができ、SA の期間を最大限有意義なものとして過ごすことができると思います！

#### ・ Progress in Writing – 英語エッセイの基礎から応用までを網羅できる授業 –

この授業では、基本的な英語でのエッセイの書き方や SA 先でのアカデミックなレポートの書き方について学びます。教科書を用いてエッセイやレポートの構造、各パートの書き方などを学びながら、実際に与えられたテーマについて書いた文章を英語採点システム (AI) に採点してもらい、自分の書いた英文を客観的に見直します。春学期は10個のテーマが与えられ、その各テーマに対して300wordsほどのエッセイを書きました。秋学期には、自分でテーマを決めて、英語で書かれた論文を参考に担当の先生に指導を受けながら1500~2000words 程度のエッセイを書きます。またこの授業では学期末に初見のテーマについて30分間で300~400words のエッセイを書くというテストがあります。時間内に自分の意見を書くためには早く意見をまとめて構成を考える能力だけでなく、タイピングの速さが重要になります。私はこの授業を通して論理的にエッセイを書く能力に加えてタイピング力が劇的に向上したと感じています。

このように、英語コースには1年生の終わりに出発する SA に向けて準備を整えられる授業が提供されています。自分の英語能力を磨きつつ、ゆっくりと自分に向き合って SA 先について考えられます！

#### 「日本語コース授業について」

日本語コースでは、「アカデミックライティング」「プレゼンテーション」「クリティカルリーディング」の授業を通じて、日本語会話、リスニングとライティング、そしてリーディングの実力を向上させることができます。多様な国の留学生たちが集まっているため、日本語と日本文化だけでなく他の国の言語や文化とも交流できる点が一番大きいメリットです。また、日本語コースには、「日本の社会実習」「ワークショップ現代日本社会」など日本社会への参画を意識した科目が設けられているため、日本語と日本文化への理解を深めることができます。

#### ・ フランス語インテンシブーフランス語の理解と運用能力を高めるための授業 –

3単位の科目であり、週3回受講しています。文法だけでなく、会話、そして全体的な復習を通じて多面的に早いスピードで言語能力が向上するような科目です。ネイティブスピーカーの先生もいらっしゃるため、実践的なフランス語のコミュニケーションができるようになります！

#### ・ 通訳翻訳の基礎（2年次） – 通訳概論や通訳の練習方法を習得するための授業 –

2単位の科目であり、週1回受講しています。日本語を韓国語や中国語に通訳翻訳し、ビジネス的な通訳翻訳の技術を学べる授業です。日本語能力が向上するだけでなく、母語の形式ばった使い方も同時に学ぶことができ、ビジネス的思考も向上させることができます。何せよおもしろい！

## 空きコマの使い方 (GCC 3年生)

時間	月	火	水	木	金
1限 09:00 - 10:30	現代社会の 社会と文化				
2限 10:45 - 12:15			上級中国語 ライティング		中国語と日本語
3限 13:10 - 14:40	中国語コミュニ ケーション		通訳の理論と 実践		国際交流支援論
4限 14:55 - 16:25	上級中国語精読		専門演習 (ゼミ)		
5限 16:40 - 18:10					
放課後	図書館で課題		バイト		バイト

GCC3年生秋学期の空きコマの過ごし方を紹介します！

まず、空きコマの時間で授業の予習や復習を行うことで、学習内容への理解を深めています。必修科目では小テストが実施されている授業も多いため、学んだ内容を早めに復習し、わからない箇所を整理することで、成績向上に努めています。勉強場所としては、集中しやすい図書館や学内カフェを利用することが多いです。図書館にはコピー機が設置されており、次の授業に必要な資料の印刷も簡単にできるため、大変便利です。また、空きコマを活用し、課題やレポートの作成、教授への質問準備を行うことで、より深い学びを得ることができます。オンデマンド授業を空きコマに受講することで、計画的な学習スケジュールを実現している学生も多いです！

空きコマを使ってリフレッシュし、頭をリセットする時間も大切にしています。学内のカフェで軽食をとりながらリラックスしたり、友人との交流を楽しむことで、気分転換を図っています。友人との会話は単なるリフレッシュだけでなく、異なる視点や新しい発見につながる貴重な機会でもあります。京田辺キャンパスならではの緑あふれる校内を散策し、自然に触れてリフレッシュすることも、次の授業に向けた良い準備となっています！

### (おすすめの京田辺周辺カフェ↓)



↑ 三山木のコメダ珈琲



↑ 京田辺の高木珈琲



## 空きコマの使い方 (GCE 1年生)

GC生はコースを問わず必修授業が多いところが特徴です。英語コース1年生である私の春学期の時間割をもとに、どのように空きコマを過ごしていたのか、大きく分けて2つご紹介したいと思います！

春学期はとにかく課題やプレゼンの準備などが毎日のようにあったため、空きコマを使い、自習をすることがとても多かったです。課題の用途や気分に合わせてどこで勉強をするのか決めていました。共同で行う発表の資料作りではソファで談笑しながら作業を行えるラーニングコモンズを使用したり、小テストや試験前はラーネッド記念図書館の自習スペースで集中して取り組むようにしたりしていました。また、GC生専用の、日の光が入り温かみのあるグループワークルームはお気に入り、友人と同じテーブルを囲み、お互いを高め合いながら過ごすことも多かったです！

反対に、課題に追われていない日はカフェテリアでゆっくり過ごしたり、日替わりでやってくるキッチンカーでおいしいご飯やデザートを買って、芝生やベンチで友人とおしゃべりをしながら楽しんでます！京田辺キャンパスは緑豊かで広々としているため、落ち着いたゆったりした時間を過ごすことができるのが魅力だと思います。タンデムパートナーに登録している学生たちは空きコマを利用して交流会をしているとも聞きました。私はクローバー祭実行委員であったため、空きコマに会議が入ることも多かったです。

全休のない時間割で毎日登校し、勉強もとても大変ですが、空きコマを有効活用して効率よく課題を終わらせたり、サークル活動や友人との時間をつくったり、充実した毎日を過ごすことができました！

時間	月	火	水	木	金
1限 09:00-10:30	Communicative Performance	Preparation for TOEFL		Introduction to English-Speaking Culture	
2限 10:45-12:15			Progress in Reading		
3限 13:10-14:40	Communicative Skills in French	Communicative Skills in French		メタ言語文化論	Communicative Performance
4限 14:55-16:25	Introduction to Global communication	商学		Progress in Writing	Threshold Seminar
5限 16:40-18:10					

## 1日の授業が終わったあとの過ごし方

### アンケート調査結果

GCC20人に  
聞いてみた!

Q 休日、授業外（後）の時間に何をしていますか？

- ・図書館で課題（レジュメ）
- ・家でドラマを見る
- ・バイト
- ・お菓子づくり
- ・サークル
- ・洋服を買いに行く
- ・部活動
- ・資格勉強
- ・お出かけ（カフェ）
- ・ジム

### 上記のアンケートに答えてくださった方へインタビュー！

#### ★おすすめのカフェ★

私の趣味はカフェ巡りで、休日には京都や大阪のおしゃれなカフェを探しに出掛けています。最近のおすすめは、京都にある「here Kyoto」さん、「stumptown」さん、「coffee roasters」さんです！

#### ★おすすめのご飯屋さん★

私は休日においしいステーキ屋を探すのが趣味なのですが、一番のおすすめは京都の河原町にある「ダイニング正義」さんです！

#### ★おすすめのドラマ★

今は台湾ドラマ「時をかける愛」（想見你）を見ています。外国語のドラマや映画を見ることは語学の勉強にもなるのでおすすめです！

### 部活動についてのインタビュー（居合道部）

・なぜその部活を選んだのか

大学に入学する前から体育会クラブに入りたいと考えていて、中高で剣道部に所属していたこともあり武道をやりたいと思っていました。居合道部に中高の剣道部の先輩が在籍されていたので体験に行ってみたところ、部室の空気感、部員の人柄、全日本制覇への本気度など、和やかながらも厳しく、日本一を獲り続ける意欲がとても強い部活であったことが入部の一番の理由です。

・部活動の頻度と両立について

部活は基本的に日曜日を除く週6日あって、平日3日と土曜日は必須参加です。GCは予習復習がマストな授業や小テストが多いため、1、2年生のときは正直かなり辛かったです。忙しい中でも通学中や空きコマを利用して課題やテスト勉強をしていました。また、両立できた一番の理由は友人の助けだと思っています。私の友人たちはみんな本当に賢くて優しいので、一緒に勉強したり教え合ったりしながらなんとかがんばっていました。

英語コース1年生の授業外の時間・休日の過ごし方は、授業で出された課題を進める、サークル活動に参加する、友達と遊ぶ、アルバイトをする、という学生が多い印象です。また、テスト前とそうでない期間で過ごし方に変化がみられます。今回は私と友人たちのテスト前、テストがない期間の授業外の時間や休日の過ごし方を紹介します。

#### ・テスト前

英語コース1年生春学期の時間割には、テストがある必修科目が比較的多く、1日の授業が終わったあとや休日にもテスト勉強をする学生が多い印象でした。

私はテスト前は、授業が終わり次第帰宅し、自宅でテスト勉強を進めていました。友人の中には、授業後も大学に残って勉強をする人もいます。大学内で勉強する友人は、集中して勉強したいときは図書館で、ほかの友人と相談しながら勉強したいときはラーネッド記念図書館1階のラーニングコモンズやラウンジ、頌真館3階にあるGCの自学自習室で勉強をするというように、気分に合わせて勉強場所を選択しています。

またテスト前の休日では、私の場合は、昼から夕方4時頃までアルバイトをし、自宅や自宅に帰るまでにあるカフェでテスト勉強をしていました。友人の中にはテスト前の休日はアルバイトをせずに勉強に時間を使っている人もいます。

テスト前はしっかり集中して勉強に取り組む学生が多いです。また、英語コースは一年生の春学期の成績がSA先選択に重要になるので、選択肢を増やすためにがんばって真剣に取り組む学生が多い印象でした。

#### ・テストがない期間

テストがない期間の授業後には、私はアルバイトをする日もあれば自宅でゆっくりと過ごす日もあります。また、2限や3限で早めに授業が終わり、アルバイトがない日には美容院に行ったり、買い物を楽しんだりすることもあります。友人の中には、授業終わりはサークル活動に参加したり、友人とご飯を食べに行ったりする人もいます。

テストがない期間の休日にアルバイトがないときは、自動車の運転練習を兼ねて家族とドライブをしたり、友人と遊びに行ったりすることもあります。友人も、アルバイトをしたり、サークル活動や遊びに行ったり、家でゆっくり過ごしたりするそうです。

私はサークル活動や部活をしていない分、授業終わりや休日はアルバイトや自分の時間に充てることが多いですが、サークルや部活に所属している友人は放課後や休日は活動に参加している人が多いです。学業も、友人関係なども充実した生活を送ることができています！

## タンデムパートナー制度について

### ・タンデム学習とは

「2人乗り自転車」が語源で、自分が勉強する外国語を、それが母語（得意な言語）であるパートナー学生のサポートを受けながら主体的に学ぶ仕組みです。母語や文化が異なる学生どうしで各自の外国語学習の目標を持ちながら、互いの学習をサポートすることは、単に外国語が上達する以上に様々なメリットがあります。

### ・タンデム学習のメリットは

「異文化能力が育つ」「外国語の苦手意識が克服できる」「留学・キャリア設計の動機付けになる」「学習動機が高まる」「学習者オートノミー（自律性）が育つ」といった実践報告があります。人前で話すのが苦手な人はもちろん、人生を通して外国語力を維持し、使い続けたい人にもオススメの活動です。

日本語コースの学生の多くがこの制度を利用しており、Cosmos 編集委員の私たちも、実際に春学期、秋学期ともに参加しております。

タンデム学習を通じて、授業では学べない若者の言葉や自然な日本語の表現を学ぶことができ、関西弁にも少しずつなれていくことができました。また、週に1回の交流の中で、1週間の間に気になっていたことを話し合うことは、文化交流につながり、学業にも役立つと感じています。タンデムパートナーをきっかけに多くの友達を作ることもできる、多面的に学校生活にいい影響を与える制度です！



タンデム・パートナーの様子

# 先生コラボ！特別コーナー

## 各コースの先生方にインタビュー！！

(執筆・インタビュー：両角 彩、松本 結月)

グローバル・コミュニケーション学部は2011年に設立され、今年で13年目を迎えました。今回私たちは、GC 学部のことについて深く知ってもらうために、GC 学部設立当時から在籍されている各コース(英語コース、中国語コース、日本語コース)の先生方にインタビューを行いました。各先生の専門分野、研究テーマに加え、先生から見た GC 学部生の良さや学部で学ぶことの魅力について詳しく伺いました。

### 英語コース

は せ べ よういちろう  
長谷部 陽一郎 教授

#### <経歴>

- 1992-1996 同志社大学 文学部英文学科  
(学部1・2年を京田辺キャンパス、3・4年を今出川キャンパスで過ごす)
- 1996-2001 同志社大学 大学院文学研究科 博士課程
- 2002-2006 徳島文理大学 短期大学部 専任講師
- 2006-2009 同志社大学 言語文化教育研究センター 専任講師
- 2009-2011 同志社大学 言語文化教育研究センター 准教授
- 2011 同志社大学グローバル・コミュニケーション学部 設立
- 2011-2021 同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 准教授
- 2018-2019 テキサス大学オースティン校 言語学研究センター 客員研究員
- 2021-現在 同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 教授
- ※2021-2023は教務主任



#### <プロフィール>

- 1歳から高校まで大阪で過ごし、その後奈良へ移住。
- ロック、特にハードロック/ヘヴィメタルを愛好しており、高校から大学にかけて中学の幼なじみとバンドを組んでいた。大学1年のときにU.D.O.のアルバム『Timebomb』を友達から借り、ギタリストのMathias Diethの技術とセンスに感銘を受ける。

### Q. 先生の専門について教えてください。 .....

認知言語学を中心に研究しています。

### Q. 今の専門に興味を持ったきっかけは何ですか。 .....

英語学の授業を大学3年のときに受け、特に統語論に興味を持ちました。授業の最終回で教授が、続きを学びたい人は大学院に来てくださいと述べられたのが頭から離れず、大学院への進学を視野に、その教授のゼミに入れてもらえるようお願いに行きました。大学4年生の夏、その先生から勧められた *Language and Its Structures* という本を読んで大学院入試の準備をしていましたが、その本との出会いが認知言語学の研究者としての方向性を決めてくれたと言っても過言ではありません。著者 Ronald W. Langacker はこの本を書いた後、それまでの言語学に限界を感じて、認知言語学という新たな分野を立ち上げた中心人物の一人なのです。

### GC 学部のいいところを教えてください .....

人生の早いうちに日本以外の環境で自立した生活をする経験を得られることだと思います。GC 学部では、好む好まざるにかかわらず、一定の期間、外国で過ごす必要があります。なじみのない環境で大人として自立した生活を送ることがとても大きな財産となるのです。一方で、GC 学部の学生は、他学部比べて専門性に欠けるという思いを持っている人が多いようです。私はそれは違うと感じています。皆さんの専門は「グローバル・コミュニケーション学」であり、SA を含む在学中の様々な学びを通じて、この分野の専門的な知識と経験を得て卒業していくべきなのです。授業や資料を通じて知識を身につけるだけでなく、実践的な学びの機会が多いことは間違いなく GC 学部のいいところですね。

### GC 学部生の印象を教えてください .....

学生それぞれに異なった長所があるので、全体的な印象を述べるのは難しいですね（笑）。あえて言うなら、コミュニケーションに関心を持ち、実践し、自身の専門として学ぼうとする気持ちがある人たちが集まっている学部だといえると思います。「コミュニケーションを大切にしたい」、「コミュニケーションに関わりたい」、こういう気持ちを持っていることは、将来どのような職についてもアドバンテージになります。また、世界中で衝突や紛争が起こっている中、また AI が生活や仕事の形を変えつつある、そのような時代だからこそコミュニケーションを学ぶことは非常に重要です。そのようなことを考えると、現代は GC 学部の学生のような人たちこそが強みを持つ時代であるといえます。

### Cosmos の読者にメッセージをお願いします！ .....

本気で情熱を傾けられる何かを見つけてほしいです！外国語の勉強でもいいし、スポーツでもダンスでもバンドでもいいと思います。情熱を傾けられる何かを持っていることは、大学生活だけでなく、人生を充実させてくれます。

## 中国語コース

うちだ なおたか  
内田 尚孝 教授



### <経歴>

1995 和歌山大学大学院教育学研究科修士課程修了  
1995 神戸大学大学院文化学研究科社会文化専攻博士課程入学  
1996-1999 外務省専門調査員  
2002 神戸大学大学院文化学研究科社会文化専攻博士課程修了  
2002-2005 淑徳大学国際コミュニケーション学部専任講師  
2005-2011 淑徳大学国際コミュニケーション学部助教授・准教授  
2009-2010 法政大学兼任講師  
2009-2011 上智大学兼任講師  
2011 同志社大学グローバル・コミュニケーション学部 設立  
2011-2014 同志社大学グローバル・コミュニケーション学部准教授  
2014- 現在 同志社大学グローバル・コミュニケーション学部教授

### Q. 先生の専門について教えてください。 .....

現在は中国近現代史、近現代日中関係史、中国外交を専門にしています。

### Q. その専門をとるに至ったきっかけを教えてください。 .....

大学1年生と2年生のときに受けた授業がおもしろかったことが大きなきっかけです。近現代の日中関係、中国の政治、外交についての学びは、知的好奇心を大いに刺激するものでした。大学3年生から4年生にかけての中国留学を経て、見聞したことをより深く理解したいと思うようになりました。

### Q. 先生のゼミについて教えてください。 .....

おそらく他のゼミと比べてときの大きな特徴は、完全に学生主体という点と、時間が長いというところでしょうね(笑) ゼミは報告とそれに対する質疑応答、ディスカッションの三部構成で、司会も学生が務めます。私は、その様子を後ろでうかがい、すべてが終わった後にフィードバックします。学生は、テキストや新聞を素材にレジュメ(資料)作成に取り組み、半期で2回報告します。報告テーマによっては、ディスカッションが白熱し、一つの報告で2時間超となることもザラです。他人の報告を聞いているだけではなかなか自分の力を伸ばすことはできないのですが、質疑応答やディスカッションに主体的に参加することで、それを可能にすることができます。興味のある分野だからこそ、ゼミ生たちは可能な限りの時間とエネルギーを費やし、大きな学びの成果を得ているのです。

### Q. GC 学部の魅力だと思う点はどこですか? .....

少人数制で、教員と学生とのコミュニケーションが活発なところだと思います。教員も一人ひとりと向き合いながら、学生の持ち味をつかんで伸ばしていきたいと考えています。また、中国語コース、英語コースではSAが必修で、1年間の現地での異文化体験は、間違いなく学生の大きな成長につながっています。ただ、現地での体験は、あくまでも個人的なものです。これを相対化、客観化できるか否かが、SAが成功したものになるか否かのカギを握っています。机上の空論は論

外ですが、個人的な体験を絶対視することも大いに問題です。事実ではあっても、実態ではないことは多々あります。それ故、帰国後の学びがとても大切になってきます。自分が見たもの、聞いたことは、いったい何だったのか、それらをより大きな文脈の中で位置づけ、熟考できる専門の講義科目やゼミもしっかり配されています。

**Q. GC 学部生のいいところを教えてください。 .....**

主体性があり、GC 学部への愛着、帰属意識が高いところですね。この学部は、コロナ禍にあってもかなり早い段階でオンライン授業から対面授業へと移行しました。2020年の秋学期にはほとんどの学部科目が対面で再開されています。まだコロナに対する警戒感や不安感が高い時期でしたが、学生どうしの対面でのコミュニケーションが非常に活発だったことが印象的です。オンライン授業が長引いたことで、大学でほとんど友達ができなかつたり、社会人になって対面での環境に適応できず苦労したりしている話をよく耳にしますが、いずれも GC の学生（卒業生）には無縁の話のようで、本当によかったと思います。

**Cosmos の読者にメッセージをお願いします！ .....**

GC 学部での学びの内容はきわめて明確で、「これを学びたい！」という強い意志を持った人にとっては最適な環境です。しかし、そうでない場合、入学後の方向転換が難しくなる可能性もあります。ミスマッチが起こらないためにも、しっかり学部について調べ、理解した上で入学することをお勧めします。語学習得に対する熱意は必要最低条件です。かつ異文化コミュニケーション、ダイバーシティの価値観に共鳴、共感できるかどうか大切です。バックグラウンドが異なった人たちとのコミュニケーションをとおして自分の世界を広げたいという考えを持っている人にとっては、GC 学部は最高の学びの場であり、自分の可能性を大いに伸ばすことができると思います。

## 日本語コース

す どう じゅん  
須藤 潤 准教授



### <経歴>

- 1994-1998 大阪外国語大学 外国語学部 国際文化学科  
1998-2002 大阪外国語大学 言語社会研究科 国際言語社会専攻  
※1999-2000 極東国立工科大学 (ロシア連邦) 東洋学部  
日本語講師を勤める  
2002-2004 ピャチゴルスク国立言語大学 (ロシア連邦) 追加教育プログラム別科 講師  
2005-2007 京都大学 国際交流センター 非常勤講師  
2006-2007 英知大学 文学部 非常勤講師  
2007-2011 立命館アジア太平洋大学 言語教育センター 嘱託講師  
2011 同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 設立  
2011-2018 同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 助教  
2018- 現在 同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 准教授

### <プロフィール>

- 北海道の函館生まれ。大阪の大学に通う。
- 1991年のソビエト連邦の崩壊のニュースを受け、北海道に住んでいたことから、ロシアと日本の民間交流が活発になるのではないかと考え、ロシア語に興味を持つ。
- 高校2年生のときに、オーストラリアでホームステイを経験する。そのときのホストファーザーが小学校の先生で、小学校を見学したときに子どもたちが日本語であいさつをしたり折り紙を折っていたりしたので、日本語教師に興味を持った。この経験をきっかけに、海外で日本文化を広める仕事に携わってみたいという思いが芽生え、ロシアで日本語を教えていた。

### Q. 先生の専門を教えてください

日本語研究の中の音声コミュニケーション、日本語の話し言葉の研究をしています。最初は感動詞の研究をしており、どのくらい音が高くなると意味が変わるのかなどについて調べていました。現在は日本語の音声を見るミクロなレベルで研究する機会が多いですが、幅広いレベルで日本語研究を行っています。

### Q. その専門を選んだ理由をおしえてください

大学3年生のときに授業の課題として作成したレポートがきっかけです。レポートを作成するにあたって、当時放送されていたインタビュー形式のテレビ番組を文字化し、仕組みを調べました。そこで、タモリさんと近藤真彦さんの会話を聞き、近藤さんがタモリさんから質問された後、必ず「あっ」と声に出して返答していることに気づいて、疑問に思い、そのことをレポートに書いたんです。これをきっかけに、もっと掘り下げてみたいと思い、そのような会話のしくみを大学院で研究することにすることが始まりです。

### Q. 今のゼミ生に教えていることは何ですか？

日本語コースの他のゼミと私のゼミで共通しているのは「日本語教育について考える」という点です。ですが私のゼミは、ほかのゼミと比べて言葉寄りの傾向が強いのではと思っています。

言葉を中心に商品の名前、商品の広告にオノマトペを使うか使わないか、や名前と商品の特徴との関連性にはどのようなものがあるか、など日本語のこぼれとしてのおもしろさを皆で調べて学んでいます。

**Q. GC 学部の魅力だと感じる部分はどこですか？** .....

少人数であり、他の学部と比べると学生と先生の距離が近く、質問などを含め先生に話しかけやすいことから、コミュニケーションをとりやすい学部だと思います。また、学生自身が「学部の盛り上げる」という精神を持っており、主体的に動ける場が学部内に存在する（Welcome to GC や COSMOS の活動など）ことも魅力の1つです。他にも、留学生（日本語コースの学生）が学部内に2割もいるという環境が整っていることから、さまざまなバックグラウンドを持った人と日常的に関わることができます。そのような利点を活かすためにも、コース間での交流をこれから増やしていけたらなお良くなると思いますね。

**Q. では、GC 学部生のいいところを教えてください** .....

元気なのはもちろん、自分の意見や考えをしっかりと話せる人が多い気がします。そして日本語コースの学生の、留学生として日本にいながら経験を積み、勉強もしながらがんばる姿は、自分にとっても励みになります。日本語コースの学生の中には日本で就職する学生も多いですね。たまに卒業生が訪ねてくれるのですが、がんばっている姿には私も勇気をもらっています。

**Cosmos の読者にメッセージをお願いします！** .....

この学部はこれからの日本社会の縮図のような学部だと思っています。外国人が増えていく日本社会のなかで、コミュニケーションをとりながら諸問題を解決し住みやすい社会を作っていく時代になります。ここは、そのような社会へ出る前の心構えができる学部だと思うのでぜひ来てください！あなたの将来はここにあります！

【特別企画】

# 現学部長 & 前学部長対談

いせ あきら  
伊勢 晃 現学部長



たまい ふみえ  
玉井 史絵 前学部長

—GC 学部について何を思う?—



(写真：左から 松山・伊勢教授・玉井教授・両角)

## 【対談者】

伊勢 晃 現学部長  
玉井 史絵 前学部長

## 【出席者】

GCE 3年生 両角 彩  
GCE 3年生 松山 桃花

※以後、伊勢晃現学部長→伊勢、玉井史絵前学部長→玉井、両角彩→両角、松山桃花→松山と表記します。

## 一はじめに

**両角**：本日はよろしくお願ひします。まずは先生方の専門をお伺ひしてもよろしいでしょうか。

**伊勢**：では、まずは僕から。もともとの専門はフランスの20世紀の詩人ギヨーム・アポリネールです。今はそこから範囲が広がってそれに関係する作家について研究しています。もう一つはフランス語を教える立場なので、フランス語の教育の教科書を何冊か出版し、フランス語の教授法についての実践を行っています。

**両角**：ギヨーム・アポリネール……その専門を選んだ理由は何ですか？

**伊勢**：いろいろあるんですが、まず大学を選んだ理由としては、英語以外の言語をやりたかったから。ここで言っていいかは分かりませんが（笑）。あともう1つの理由として僕は文学青年でもあったんですね。ロシア文学やフランス文学が好きで、フランス文学の中だとジャン＝ジャック・ルソーが好きでした。でも、大学2年生のときのフランス語の講読の授業で扱われた短編作品があって、ギヨーム・アポリネールと出会いました。「あ、これだ」とそのときに思って、それから今に至るまでずっと一緒にいます（笑）。そのときの出会いが自分の中ではかなり大きかったですね。

**玉井**：なんでこの人だと思ったのですか？

**伊勢**：ギヨーム・アポリネールって詩人として知られているんですよね。だからこそ、短編という観点がありませんで……また、その当時に僕が好きな画家がいたのですが、その人とギヨーム・アポリネールが実は恋人だったと。こんなたまたまの出会いが、文学家や芸術家など多岐につながっていった……という感じですね。そこから実は今、宝塚歌劇団にはまっています。これに関しては話し始めたら止まらないので、一旦話を戻しましょう。

**両角**：ありがとうございます。玉井先生お願いします。

**玉井**：私の専門は19世紀のイギリス文学で、特にチャールズ・ディケンズについて研究しています。有名な作品で言うと「クリスマス・キャロル」で、当時の19世紀では一番人気のあった小説家と言われていました。選んだ理由としては、伊勢先生と同じで、私も文学が好きだったから。あと、長い話が好きだったのでイギリス文学で長編作品を書いているのは誰だろうと探したときにディケンズだったという感じです。もう一つの専門としては、英語を教える立場として、英語教授法についても学んでいます。一時期、「もう文学は十分かな」と感じたことがあって、その頃から英語教育学に興味を持ち、勉強を始めました。数年にわたり英語教育について学ぶ中で、改めて文学への興味が湧き、その思いを胸にイギリス留学へ。そこからはヴィクトリア朝の文学をずっと専門にしています。

## 一 学部長としての役割

**両角**：学部長に就任されてから（されたとき）、就任前と比べて何か変わった点があれば教えてくださいませんか？

**伊勢**：正直なことを言うと、会議が多いことですかね（笑）。講義という皆さんから見える部分だけではなく、学部の管理や運営という見えない部分にも携わるようになるので。本当は学生の授業準備の方に時間を回したいんですけど、以前よりは、その時間が減ってしまったかなと思います。

**玉井**：あとは、やはり学部長としての責任が増えたことが大きかったですね。何か判断しなければならなかったことが多かったのも、そのときにはやはり緊張感がありました。特に私のときは、コロナ禍だったので決断を迫られることが多かったと思います。日本に一時帰国していた学生が中国に戻るができなくなってしまうなど、予想できないことが何度も起こり、先生方と会議を重ねて、何とか乗り切りましたね。今を振り返って考えてみると、結構思い切った決断も多かったです（笑）。

## 一 今の GC 学部生と昔の GC 学部生

**両角**：学部長や教授の立場として、長年 GC 学部生を見てこられたと思うのですが、今の GC 学部生と昔の GC 学部生の違いはありますか？

**玉井**：創設当時と今の違いというよりは、結構学年によって個性が違ってくるところが多いかな。この前も卒業生の方とお会いしたのですが、会えばその学生さんの時代のことを思い出します。ただやっぱり、一期生はすごくがんばってくれたなというのはかなり印象に残っています。今の Welcome to GC の活動も入学して数か月の学生さんが、「私たち、この学部のこと

をオープンキャンパスで紹介したいです」というふうに自発的に言ってくれたのですよね。そのときは学生がオープンキャンパスで話すということは少なかったのですが、当時大人気の企画になっていました。創設当時は、私たちががんばらなきゃと思っていたのですが、学生さんが一緒にがんばってくれてすごく嬉しかったのを覚えています。学生さんの「こんな学部になりたい」という強い思いがあってこそ、今のGC学部ができたのではないかなと。

**両角**：私もCosmosの活動を通じて、様々な先生方にお話をお伺いしているのですが、どの先生からも1期生の活躍は凄かったと聞きました。

**玉井**：そうだね……確かにグローバル・コミュニケーション学部っていうあまり聞きなじみのない学部に入ろうと思うこと自体が結構勇気のいることだと思うし、PR方法はすごく大切でした。

**伊勢**：当時は実績がないからね。今ならある程度卒業生もいるし、実績もありますけど。ただそういう意味では、1から思い通りに学部を作っていくことができてもおもしろかったですね。

**玉井**：やっぱりここは良くも悪くも京田辺なのでね（笑）。今出川よりも広くて自由があるかなと思っています。理系の学部が多いキャンパスなので、あまり周りの目を気にせずのびのびやれたかなと。

**松山**：私も京田辺キャンパスの方が愛着があります！

**玉井**：1つの理想として学びの共同体という考え方があるんですよね。それに関する文献を読んで思ったことは、これからの学部って私たちが何かを教えるというよりはみんなで学んでいく、その共同体を作っていくには「community」と「communication」が必要だと思っています。特に学生さんが来てからそう感じるようになりました。

**松山**：他の学部はやはり違いますか？

**玉井**：他の学部は（GC学部と比べて）人数が多いからね……ゼミなどは少人数ですが1つの教室に大量の学生が入って授業をすることが多いかなと。逆に京田辺はどこを見ても同志社生が多いよね。今出川からこの同志社生の多い環境に帰ってくるとき、個人的にはすごくちょうどいい環境だなんて思います。

**伊勢**：僕も夕焼けがきれいに見えるときとかとても落ち着きますね。こののびのびできる環境も学生さんにとって大切だと思います。

## — GC学部の魅力とは

**両角**：京田辺の話が名残惜しいですが、次の質問に進ませていただきます。先程の質問と似ていますが、GC学部のこの魅力を伝えたい！というのがありますか？

**伊勢**：若い学部なので、まだすごく伸びしろがあるというか、固定されていないところが魅力ではないかと思っています。学年によって特徴も違うので、教えている身としてはどうなっていくのかなというワクワク感がありますね。あとはフロンティア精神のある人が今も昔も多いと思います。毎年型に当てはまらずに突き進んで行く学生さんがいるからこそ、この学部が古くならずすんでいるのかなと。

**玉井**：伊勢先生がおっしゃってくれたように、覚悟して1年間のSAに来てくださっている学生さんが多いので、積極的な方が多いなという印象はありますね。留学に行きたいというやりたいことがはっきりしている皆さんだからこそ、チャレンジ精神があるし、変化を恐れないというか。あとは、皆がSAという同じ経験を土台に共に過ごしていくことがかなりアドバンテージになると思います。ただ行くだけではなくて、帰国後に思い出を、同じ長期留学を経験した仲間と共有することが、実はすごく大切なんですよ。

**松山**：私もSAから帰ってきて両親が変わったと言われることが多くなりました。行動力も上がって、チャレンジしてみよう！っていう気持ちがあるよねと。自分自身ではあまりわからなかったのですが、そう言われてから考えるようになりました。

**両角**：確かに、何かにチャレンジすることへのハードルは前より下がったかも。

**玉井**：そうだよ！それを共有し合えることもGC学部の魅力の1つだと思います。

### ーこれからのGC学部へ

**両角**：学部創設時から様々な変化を経て現在に至ると思いますが、「これからの」GC学部生にどのように成長していったほしいと思いますか？

**玉井**：これからの世の中っていろいろ難しいんですよ。政治状況が変わったりして、「この人は何を考えているんだ」とか思ったり。だけどその中でも、世の中を良くしていきたいという思いは持ってほしいなと思いますね。それは世の中のために身を捧げるということではなくて、まずは自分が幸せになるにはどうしたらいいんだろうと考えることから。それは、人が不幸になることでは絶対にはいはずなので、幸せな人生を生きるために、どうしたら自分自身が幸せだと思えるかを考えてほしいし、(学生には) 幸せになってほしいなとも思います。

**伊勢**：じゃあ僕も「幸せ」というキーワードに続いて。僕自身も、いつも卒業式のときには学生に幸せになってくださいと言うんですけど。ただ、何を幸せと捉えるかは学生によって違いますよね。僕がいつも思っているのは、結局自分の中に全部があるということなんです。自分の可能性は無敵大であるからこそ、なるべく自分に制限をつけずにいろんなことにチャレンジしてほしいなと思います。そこから幸せを見つけに行くことが大切なんですよ。幸せはつかみにいくもので、待ってても来ないんですよ。だからこそ、とりあえず挑戦してみるということが大事だと思います。その先得た出会いや経験を経て、その中で「何が一番私にとって幸せか」ということを探してほしいですね。

**玉井**：これから先何が起こるかわからないからこそ、いろんなものを柔軟に受けとめてほしいとも思います。「自分に起きることは最善のことである」というように、自分の選択は常に最善で、起こったことはいつも最善のことだと信じて欲しいなって。

**伊勢**：最終的な意志決定は全て自分自身ですからね。

**玉井**：その中で残念なことは、後悔することなだけけど、もっと残念なのは人のせいにする。人生って自分の思い通りに行かないことが多いんですよ。そのときにどうしたらいいかと言うと、受け入れるしかないんですよ。でも、受け入れた先に、これはいいことだって思えることが大切だと思います。

一さいごに

**両角**：最後に読者の方に一言お願いします。

**伊勢**：そうですね。先程も話したのですが、「これはこうだ」と決めるのはかなり損することが多いと思うんですよ。大学でいえば、好き嫌いを今の段階で決めるのではなくて、学びを通して、全体を見渡したときにそこに何かあるのかを判断してみてください。それができる制度がこの学部にあります。

**玉井**：GC 学部はそのような面で、1つに縛られない自由さがあると思います。コミュニケーションの語源はコミュニカーレ（意味：シェアする、分かち合う）ですけど、それができる広い心を持って欲しいと思います。自分の思っていることが全てではないんですよ。だから少なくとも、他者の意見を否定するのではなくて、意見の違いを受け入れて欲しいなと思います。自分の見ている世界が全てではないのかもしれないと思うことが、救いになることも多いです。だからこそ、分かち合える心の広さがこれからの時代を生きる皆さんにとって必要不可欠なものになるかもしれないですね。

**両角**：先生方、貴重なお話をありがとうございました！

#### あとがき

皆様いかがでしたでしょうか？これらのインタビューを通じて、GC 学部の魅力や可能性をより深く理解し、学びへの新たな視点や意欲を見つけていただければ幸いです。先生方の思いを聞いて、私たち学生自身も、改めて GC 学部のことを知る良い機会となりました。インタビューに協力していただいた先生方、お忙しい中本当にありがとうございました。

執筆：両角 彩、松本 結月

## 2024年度卒業研究タイトル

### Advanced Seminar 2-② (担当 玉井 史絵)

- |       |  |
|-------|--|
| 梨羽 小春 | The Limitations of Liberty in America: A Study of <i>The Shawshank Redemption</i>  |
| 藤田 明咲 | Unromantic Love: The Representation of Love in <i>Frozen</i>   |
| 藤谷 大機 | Nostalgia in Paris: Le Fabuleux <i>Destin d'Amélie Poulain</i>   |
| 橋本 妃由 | Japan as a Different Culture: Relationship between the film of Orientalism in <i>Lost in Translation</i>                   |
| 初田 采音 | Representation of an Ideal Society in the film <i>Pacchigi</i>   |
| 北林 昇悟 | <i>Black Panther</i> and Black Culture   |
| 溝口 創大 | Aspects of Documentary in Wem Wenders's Film <i>Perfect Days</i>   |
| 西村 圭太 | The Clown and the Fear in the film <i>IT</i>   |
| 柴田 桃  | Is Marilyn Really Dumb?: The Representation of Beauty of Marilyn Monroe in <i>Gentlemen Prefer Blonde</i>                  |
| 谷口 滝基 | Apes as White Americans' Enemy: Exploring Racial Issue and Social Structure in the 1960s through <i>Planet of the Apes</i> |
| 青木 里奈 | "Happily Ever After": Representation of Women's Happiness in Disney's <i>Enchanted</i>                                     |
| 岸本 歩美 | Diversity and Social Privilege in the Movie <i>The Greatest Showman</i>  |
| 山本 若芭 | The Influence of Romance Films on Our Concept of Romance: Analyzing <i>Before Sunrise</i>                                  |

### Advanced Seminar 2-④ (担当 UCHINO Crystal Kimi)

- |         |   |
|---------|---|
| 久木 楓佳   | How Gender-Stereotyped Ads Matter in Society and What Makes Them Gender-Free Ads  |
| 星 彩香    | K-POP and Gender: Promoting Self-Accepting and Diversity  |
| 梶谷 洸太   | K-Pop "Girl Crush" Concept and Feminism in South Korea  |
| 川嶋 勇輝   | Various Factors of Gender Diversities in Thailand   |
| 北本 葵    | A New Definition of Genderless Fashion and Its Impact on Society  |
| 長塚 悠樹   | Educational Inequality in Japan: Parental, Economic, and Regional Differences.  |
| 西田 桃子   | Gender Roles and Societal Contributions in Horror Films: A Comparative Analysis of <i>Ringu</i> and <i>The Ring</i>                     |
| ローバー 仁菜 | Dealing with Microaggressions: Coping Strategies by Mixed Roots Individuals   |
| 堺 絵梨賀   | An Analysis of Depictions of Street Prostitution Among Young Women in Japan: A Comparative Study of Three Books and Their Social Impact |
| 左近 寛裕   | The Lasting Impact of Historical Segregationist Policies on Detroit's Demographics and Public Health                                    |
| 佐々木 美空  | What Fostered Racism and Made Us Believe It   |
| 高橋 健太郎  | Impacts of Masculinities in Society and Shifts in Masculine Norms   |
| 山田 春香   | How Have Men Involved in Feminist Activities Reshaped the Traditional Understanding of Gender Equality and Masculinity?                 |
| 鳥飼 美汐   | The Intersection of Age and Gender: Disparities in Japanese Television Announcing   |

Advanced Seminar 2- ⑤ (担当 FUKUSHIMA Marcelo)

- |        |   |
|--------|---|
| 小林 純平  | A Comparison Between the Japanese and Global Markets on the Release of New Products                               |
| 中村 愛   | Differences in Customer Sentiments Expressed in TV Commercials between Japan and the US                           |
| 小野寺 春香 | Why Hawaii Has Been a Popular Destination for Japanese People   |
| 澤谷 和   | Effects of Merger and Acquisition on Succession Issues of Japanese Small and Medium Enterprises                   |
| 塩見 百菜  | The Gap in Japan Between Expectations of Students and Companies' Evaluation of Long-term Study Abroad Experiences |
| 鈴木 礼生  | The Japanese and UK Financial Industries from the Perspective of FinTech  |
| 田尾 遥翔  | Factors Behind High Stadium Attendance in the Bundesliga and the Premier League                                   |
| 富山 開   | Why Sports in Japanese Colleges Are Not Marketed Compared to American Colleges                                    |
| 土谷 恭加  | Strategic Imperatives for the Global Expansion of the Japanese Sake Industry The Cases of Dassai and Hakkaisan    |
| 柳本 偉月  | Linguistic Devices in Political Speeches from Koike Yuriko and Hirofumi Yoshimura                                 |
| 矢野 瑞季  | Frequent Flyer Programs (FFPs): A Comparison Between ANA and JAL  |
| 横谷 希実  | Globalization and Colonialism: An Evolutionary Analysis of Societal Structures and Power Dynamics                 |
| 山口 莉菜  | Impact of Fast Fashion on the Environment and Society and Consumer Awareness in Japan                             |
| 山原 梨奈  | The Benefits That Companies Can Gain from Contributing to The SDGs  |

## Advanced Seminar 2- ⑥ (担当 長谷部 陽一郎)

- 吹谷 龍之介 A Quantitative Study of Irony in English by Using Text Embeddings  
市川 智大 Ellipsis in News Headlines: A Study of Verbal Phrase Omission in The New York Times  
近藤 花 Beyond Language: Exploring Personality Shifts in Multilingual Individuals  
功野 太一 A Comparative Analysis of Baseball Metaphors in Japan and the U.S.: Shifting Usage and Cultural Implications  
久野 真子 Trends in English Neologisms (2014-2024): A Study of Word Formation and Semantic Fields  
三輪 京佑 Formula 1 Team Radio: Language Aspects of Register Variation  
宮下 大夢 Diverse Elements Relevant to Improving the English Skills of ESL Learners with Real Classroom Observation  
岡村 海輝 A Comparative Study of Anti-proverb Usage between English and Japanese: The Impact of Linguistic Differences on Culture  
奥田 礼人 The Acquisition of Negation in English and Japanese First Language Learners: An MLU Analysis  
大槻 香乃 Linguistic Analysis of Gender Role Transition in Disney Princess Movies  
多田羅 七鈴 A Comparative Study of “Storm” Metaphors in English and Japanese  
井上 ひかり Web Accessibility with LLMs: Automating ALT Text Generation  
吉村 希蘭 The Accuracy of Translated Novels Through Contrast of Emotional Metaphors Between English and Japanese  
松下 光太郎 The Influence of Language on Personality: A Study of Bilingual Individuals in Timor-Leste  
吉雄 啓仁 Lyrics as a Mirror: Emotion and Value in Japanese Hit Songs (1994-2023)

## Advanced Seminar 2- ⑦ (担当 吉田 優子)

- 市川 賢也 Golden Kamuy Phenomena and the Revitalization of the Ainu Language  
磯田 勇磨 Indian English Features and Differences between Hindi and Bengali English  
柿木 唯花 Linguistic Traits of Hawaiian English and the Cultural Background  
垣谷 勇人 The Place of the English Language in Indian Education  
小嶋 亮太郎 Preservation and Changes of LHL Pitch Pattern in the Kansai Dialect  
小鍛治 明日美 Sound Symbolism: The Differences in Character and Brand Names in Japanese and Korean  
三原 歆太 Field work of the Totsukawa Dialect: Unique Pitch Patterns  
森岡 菜々花 Japanese Speakers' Perceptions of General British English  
矢吹 亜香音 Role language in Disney and Pixar animated films  
茶屋 美幸 Linguistic Characteristics of African American English and its Cultural Background  
竹山 裕翔 A Study of the Tsugaru Dialect: How do Dialects Occur and Spread in Japan?

Advanced Seminar 2- ⑧ (担当 Peter NEFF)

船戸 洋	Analysis of the Power of Cheering on Runners' Motivation and Performance
濱野 なごみ	The Process of How to Build Friendships with People Encountered through OSHI
原 宏多	The Relationship between Study Abroad (SA) and International Sports Fandom
掛屋 翔太郎	What Experiences Create the Best Study Abroad?
小林 七奈	The Positive Impact of Group Work on English Learning
大濱 百花	Dieting Motivation for Japanese Young Women
奥西 遥香	Differences in Learning Methods and Motivation between Advanced and Cramming Learners in Regular School Exams
田中 珠鈴	The Relationship between Motivations and Tidy-up Behavior
山本 穂香	Comparison of Musical Characteristics in J-POP and K-POP: What Elements Do Fans Want?
安田 雄亮	Reflections on Future Parenting
安納 明映	The Effect of Educational Practice on Students' Motivation to Become Teachers
横井 亜美	The Effect of Scolding on Children in Education
今道 拓哉	What Motivates Gen Z in Japan in the Workplace?
中島 史佳	Psychological Factors Influencing the Formation of College Students' Exercise Habits
谷口 佳穂	The Methods of Overcoming Frustration in Job-hunting

Advanced Seminar 2- ⑨ (担当 窪田 光男)

池内 風佳	Differences in the Expression of Color Words by Age or Gender
磯野 文音	Linguistic landscape in Kyoto from the perspective of foreign visitors
松谷 梨那	Relationship between Ryūkōgo and Society
瀧藤 涼香	Emotional Expression of Emojis and Communication Effects
辻 萌香	First Names and Identities
山木 優奈	Differences in Viewers' Impressions of the Characters in the Film Annie Between Japanese Subtitling and Dubbing
前川 陽菜乃	How our perception about environmental issues gets influenced by environment vocabulary

## —中国語コース—

### 専門演習3-① (担当 内田 尚孝)

- 端山 仁 米中ハイテク戦争に関する研究－半導体産業をめぐる米中の攻防を中心に－  
林 康陽 中国におけるゼロコロナ政策に関する研究－政策転換とその社会的影響を中心に－
- 平井 葵 米中デカップリングに関する研究－半導体分野にみる覇権争いの行方－  
池内 このみ 中国における都市と農村の二元構造に関する研究－農民工問題を中心に－  
北出 裕津季 知的財産権から見る日本企業の対中進出リスクに関する研究－模倣品を中心に－
- 諸石 光潤 戦後の日中民間交流に関する研究－文化交流を中心に－  
中島 昂我 台湾民主化プロセスに関する研究－ハンチントン理論に基づく「下からの民主化」と「上からの改革」の相互作用としての政治的展開－
- 岡田 琴葉 廃棄物の国際取引における日中の現状と課題に関する研究－廃棄物処理と循環型社会の構築に焦点を当てて－
- 奥田 陽彦 梁啓超の近代国家思想に関する研究－「中国」の創出とその思想的射程－  
上原 ジェローム太志 満洲国阿片専売制度に関する研究－麻薬をめぐる国際関係と日本の満洲国支配－  
山本 優海 中国の対外援助と ODA に関する研究－国際援助協調のゆくえ－

### 専門演習3-② (担当 郭 雲輝)

- 挾間 梨歌 「イヌ」に関する中日対照研究  
林 珠香 大陸の中国語と台湾の中国語における外来語の相違－美容関係の用語を中心に－
- 廣瀬 梨乃 日本語の「分かる・分かった」に相当する中国語表現との違い  
井上 莉奈 日中流行語の比較－2020年2021年見える社会の変化を中心に－  
神元 宏空 “头”を含む“四字成语”と日本語における慣用表現との対応関係  
古東 丈幸 中国語の語気助詞に関する計量的考察－『窓際のトットちゃん』の中国語訳を中心に－
- 松永 瞳 日本人中国語学習者の誤用分析  
森田 かおり 動物を含む日中両言語におけることわざの比較  
柴田 姫奈 『崖の上のポニョ』と中国語吹き替え版における字幕翻訳の研究  
若宮 奈々 「色」に関わる四字熟語の中日比較  
高橋 香織 『ノルウェイの森』と中国語訳における感動詞の日中比較

専門演習 3-③ (担当 中西 裕樹)

- 大洞 明日美 中国料理のメニュー名における中国語と日本語のネーミングの比較研究 - 台湾  
点心チェーン店鼎泰豊のメニュー名を参考に -
- 山品 達哉 日中小説比較から見る日本語と中国語の字義的意味解釈の差異
- 梁 仁園 韓国語の「-는데」「근데」「-  
지만」について - ドラマ「脱出お一人島」を中心に -
- 坂口 夏帆 日本語と中国語の映画タイトルおよび字幕翻訳の比較研究

専門演習 3-④ (担当 唐 穎芸)

- 有賀 美咲 日本の植民地運営から見る満州支配の特色 - 台湾・韓国との比較を交えて -
- 伏木 亜実 DIOR の広告問題から見る中国人に内在する西洋的審美観
- 石本 美羽 2019年香港デモからみる新しい抗議運動の姿
- 小林 美範 パンダ外交の形成と今後の展開
- 児玉 萌日香 上海租界における日本映画の受容の変化 - 東和商事の上海租界進出と中華電影  
の設立を中心に -
- 近藤 朱夏 一人っ子政策が都市の女性の出産と精神的健康に与えた影響
- 沖中 いづみ 『楚辞』『九歌』山鬼篇における感情と宗教的描写について - 屈原の経験と思想  
の観点からの再解釈 -
- 奥野 優 台湾語教育とデジタル技術の参入 からみる台湾語学習への展望
- 岡崎 葉生 台湾社会における『同志』の家族関係と『同志文学』における家族関係

## —日本語コース—

### 専門演習 2-① (担当 脇田 里子)

畢 洛榮	中国人日本語学習者による複合動詞の意味推測に関する研究
趙 現河	韓国の Webtoon と日韓の実写化作品に関する研究
傅 榆雲	中国人日本語学習者の和製英語の認識に関する研究
金 延珍	日本と比べた韓国のアニメーションの多様化研究
李 柱妍	アメリカ映画タイトルの韓日翻訳戦略研究
李 柔奈	韓国ドラマにおける日本語字幕戦略研究
李 娅萌	中国人による和製漢語の意味推測と日本語学習支援の研究
時 銘聰	日本語学習者の若者言葉の意識についての研究
黄 承宇	日港における日本マンガの当て字に関する研究
張 霆蛟	残留孤児のアイデンティティーと日中文化の認識に関する研究
南 抒演	日韓アイドルのグローバル化産業の SNS 活用比較に関する研究
李 怡臻	中国人日本語学習者の日中同形語の習得に関する研究

### 専門演習 2-② (担当 須藤 潤)

河 知映	同等友人同士の会話における日本語学習者のアップシフトについて—アップシフト使用実態の分析—
張 ヘリ	アニメーション作品のキャラクターが持っている人物像の日韓対照—『名探偵コナン』の「服部平治」のセリフの比較—
鄭 睿林	外国人留学生の視点から見た多言語対応サービスの現況と改善方向
関 ガウン	声優が担当したキャラクターに対して違うイメージを持つようになる要因について—声優の声とキャラクター認識—
王 凡	異文化コミュニケーションにおけるあいづちの使用—中国語のあいづちと日本人の受容に関する研究—
尤 寛喬	アニメ、漫画における「壁」のメタファー表現解析—『進撃の巨人』キャラクターセリフ分析を中心に—
張 嘉濤	中国語母語話者から見たやさしい日本語—中日同形同義語・同形異義語から—
趙 哲驍	中国語フィクションの翻訳における役割語の応用—ドラマ『ロング・シーズン』の日本語字幕版を中心に—
蘇 羽佳	邦題のカタカナ表記使用について—海外映画のタイトルの形態素解析—
高 珖赫	在日コリアンの日韓コードスイッチング発話の特徴—在日コリアン3世・日本人韓国語学習者の比較を中心に—
金 京律	韓国の地域差が日本語発音形成に及ぼす影響—慶尚道および京畿出身の韓国語母語話者を対象に—

専門演習 2-③ (鈴木 伸子)

- 趙 奎理 日本における K-POP ブームが滞日韓国人留学生に与える影響 - K-POP は日本人との対面交流を促進するか? -
- 鄭 瑜璃 メディアによる同性愛者ステレオタイプの認識変化に関する研究 - 教育的動画の視聴体験を通じて -
- 金 文英 聞き手としての日本人若者の「女子力」に関する捉え方 - 現代日本社会の性役割意識の変遷と「女子力」の評価の関係 -
- 金 宵恩 日韓大学生の「男性のメイク」に関する社会的認識
- 金 蓮花 韓国人留学生における日本語の「若者言葉」の自然習得の実態とその学習動機
- 羅 矜 日本の大学生におけるフェアトレードに対する認知と消費行動 - Web アンケートにもとづく分析 -

NGUYEN LONG THANH

- 英語のポッドキャスト (Podcast) 制作がもたらすスピーキング能力の効果 - 日本人大学生を対象とした長期的アプローチの試み -
- 愼義眞 ニューラル機械翻訳 (NMT) が日本語学習者の「書く」場面に与える影響 - 韓国人大学生の初級・上級者の比較から -
- TA Minh Nhut 在日ベトナム人の言語シフトに対する家族内言語方針 (FLP) - 親たちの体験談による継承語教育を始めた理由と言語シフトのパターン・特徴とその対応方針を中心に -
- 朱 才赫 JLF (Japanese as a Lingua Franca) の理解度に母語一致やその JLF グループへの親しみが与える影響について - 中国・韓国人 JFL 話者、中国・韓国人の聴者の場合に -
- 梁 宰源 日本語上級者における日本語不安 - 高度な日本語力という他者評価と社会的期待との関係 -

## 編集後記

この度は、『Cosmos 第14号』を読んでくださり、誠にありがとうございます。昨年からWeb版での発行となったCosmosですが、今年度はGC学部の魅力がたくさん詰まった1冊として納めることができました。およそ半年の間、15名のメンバーが4つのトピック【SA・GC学部での学生生活・GC先輩との交流・GC学部のあれこれ】に分かれ活動してきました。それぞれが主体的に動き、自らの経験などを通してGCについてより深く知り、将来を広げることできた期間だったと思います。GC学部では、ゼミや課外活動、SA、そして幅広い国際教養科目を通して得た知識と経験を活用し、複雑な世界の在り方を読み解く力を養います。実践的な外国語力をつけることで、あらゆるバックグラウンドを持つ人々とのコミュニケーションを通して世界を広げることができます。その中で、異なる発想を持つ人々を受け入れる心を育みます。そして、好奇心を持って新しい分野に挑戦し続け、多方面で活躍できる人材がグローバルに羽ばたいていきます。Cosmosの編集活動を通して、私たち学部生でも知らなかった新しい発見がたくさんありました。本誌を通して言語を学ぶだけではないGC学部のまなびの魅力、またその中で成長をし続ける私たち学生に、魅力を感じていただけましたら幸いです。今後とも、私たちGC生の活動にぜひご注目ください。

最後に今一度、本誌『Cosmos 第14号』の編集に携わってくださった関係者の皆様、そして本誌を手にとってくださった皆様に御礼を申し上げます。

英語コース 3年生 副編集委員長 両角 彩

### 2024年度Cosmos編集委員会

英語コース 3年生 長田 真依、両角 彩、松山 桃花  
2年生 小林 陽円里、佐藤 和香、森本 有梨沙  
1年生 小田垣 都和、北川 うの、中出 ちさ、松本 結月、森 淑恵  
中国語コース 4年生 児玉 萌日香  
3年生 藤江 奈々  
日本語コース 1年生 イ チャンヒョン、張 允羅

### グローバル・コミュニケーション学会

#### 運営編集委員会・役員会

玉井 史絵、吉田 優子、DANA JOHN LINGLEY、孫 樹喬



## *Cosmos* 第14号

2025年3月15日発行

発行 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会  
〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3  
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部内  
Tel (0774) 65-7491 Fax (0774) 65-7069

編集 2024年度 *Cosmos* 編集委員会  
グローバル・コミュニケーション学会 運営編集委員会

印刷 株式会社あおぞら印刷  
〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15

